

4

機器の拡張について

本章ではパソコン本体にオプションカードやディスク装置、メモリカードなどを取り付ける方法について説明します。
注意事項を守り、正しく取り扱ってください。

1	作業を始める前に	94
2	LAN の接続	96
3	プリンタの接続	105
4	マイク（別売り）の接続	109
5	スピーカ（別売り）の接続	110
6	本体カバーの取りはずし、取り付け	111
7	オプションカード	116
8	増設ハードディスク装置	120
9	増設 5 型装置	133
10	増設メモリカード	137
11	内蔵バッテリーの交換	141
12	内部ケーブルの接続	143

1 作業を始める前に



お願い

- ・システムの拡張についてはパソコンの内部について、ある程度の知識や経験のある方（以前にメモリ増設、オプションカードの取り付けなどを行われた方）を対象としております。システム拡張の経験のない方、難しいと思われる方はお買いあげの販売店、または同梱の『保守サービスのご案内』をご覧くださいのうえ、お近くのサービスステーションにご相談ください（作業をご依頼の場合は有償で行います）。

作業前の注意事項

湿気やホコリが少なく、直射日光の当たらない場所で作業を行なってください。温度範囲は 10 ~ 35 、湿度範囲は 30 ~ 80%Rh ですが、結露するような急激な温度変化を与えないでください。

必ず周辺機器に付属の説明書をお読みになったうえで、取り付けを行なってください。注意事項は周辺機器によって異なります。各項目をよく読んでから作業を行なってください。

各手順は、必ず正しい順序で行うようにしてください。

取り付け作業時にプリント基板の角などで指を傷つけないように、作業用手袋の使用をおすすめします。

静電気の発生しやすい環境（じゅうたんの上等）で作業しないでください。静電気を帯びることにより電子部品が故障することがあります。

必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから取り付け作業を行なってください。作業上必要な場所以外には、手を触れないでください。

内部には高電圧部分が多くあり、万一触ると危険です。

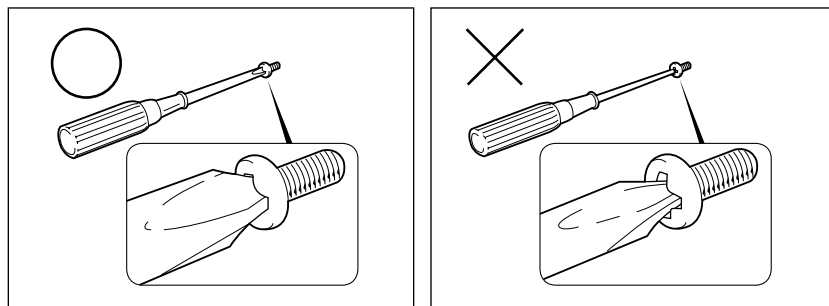
取りはずしたネジは紛失しないように注意してください。また、機器内部に落とさないでください。

ネジは数種類あります。取りはずしたネジは必ず元のネジ穴に取り付けてください。異常や故障が発生したら、『保守サービスのご案内』をご覧くださいのうえ、お近くのサービスステーションまたは、お買いあげの販売店にご相談ください。

オプションカードには鋭い突起があります。手を傷つけないようにしてください。

コネクタの接続、オプションカードの取り付けなどで、ドライバを使用する場合は、必ずネジにあったものをご使用ください。

ネジに合わないドライバは、十字穴にすきまができて安定しません。また、無理に使用すると、十字穴をつぶす原因になります。



本体へのケーブル接続は、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり曲がったりします。ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、ケーブルがはずれないようにネジをしめてください。電源コードの接続は、アース線、プラグの順に行なってください。取りはずす場合は、プラグ、アース線の順に行なってください。



注意

- ・この章で説明されている「6節 本体カバーの取りはずし、取り付け」以降の作業を行う前に、システムを終了させ、パソコン本体と接続されているすべての周辺機器の電源を切り、その後パソコン本体背面に接続されているすべてのケーブル類を取りはずしてください。パソコン本体を開け、作業を行う前に、電源を切り、ケーブル類を取りはずしておかないと、作業者のケガや機器の損傷を招くことがあります。
- ・本体カバーをはずして作業する場合、電源コードを抜いて1分以上たってから作業してください。機器の故障の原因となります。
- ・本体カバーをはずして作業する場合、内部には鋭利なところが多数ありますので、十分注意してください。なお、作業に際しては手袋をしてください。



お願い

- ・本体カバーを取りはずした状態での操作はしないでください。電源を入れる前には、必ず本体カバーを取り付けてください。

● 作業前の準備

システムの拡張作業で、次のような道具が必要になる場合があります。あらかじめ、ご用意ください。

- ・ + (プラス) ドライバ
- ・ 作業用手袋
- ・ 取りはずしたネジなどを入れる袋

● オプション取り付け時の設定

周辺機器によっては、セットアップでの設定が必要になるものがあります。

☞ 設定について

☞ 「5章 BIOS セットアップについて」、『各オプションに付属の説明書』

② LAN の接続

本装置は、Fast Ethernet LAN (100BASE-TX)、Ethernet LAN (10BASE-T)に対応しています。ここでは、LAN ケーブルの接続、LAN インタフェースをご使用になる際の注意事項および技術的な内容を説明します。



注意 ・サスペンドに移行すると LAN 接続が切断されることがあります。この場合、システムの再起動が必要です。
サスペンドからの復帰の際、システムやソフトウェアの状態によっては、正常に LAN 接続が復帰しない場合があります。この場合は、BIOS セットアップの [POWER MANAGEMENT SETUP] で [Suspend Time Out (Minute)] を [Disabled] に設定してください

☞ BIOS セットアップについて ☞ 「5 章 BIOS セットアップについて」

① 適正なケーブルの確認

LAN インタフェースを 100BASE-TX 規格 (100M ビット / 秒) でご使用になるときは、必ずカテゴリ 5 (CAT5) のケーブルおよびコネクタを使用してください。カテゴリ 3 のケーブルは使用できません。

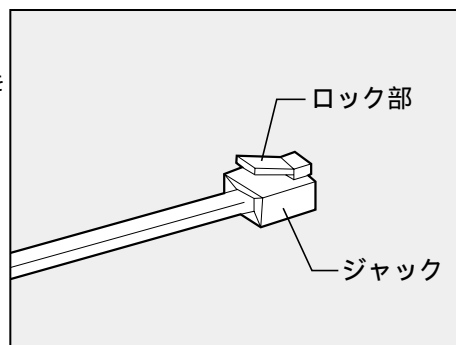
10BASE-T 規格 (10M ビット / 秒) でご使用になるときは、カテゴリ 3 または 5 のケーブルが使用できます。

② LAN ケーブルの接続



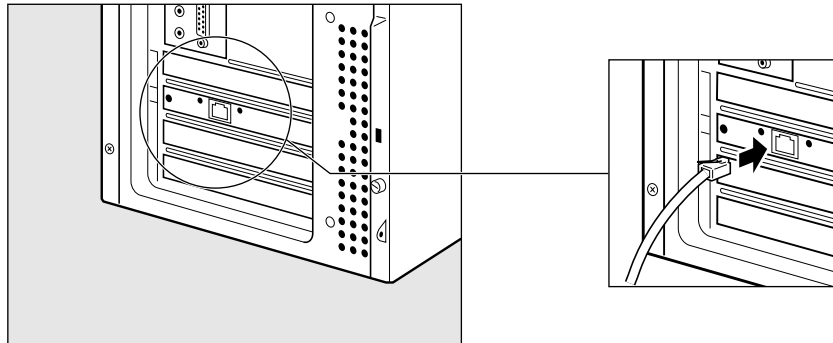
お願い

・LAN ケーブルをはずしたり差し込むときは、ジャックの部分を持って行ってください。また、はずすときは、ジャックのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。



- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 Windows 95 をご使用の場合は、BIOS セットアップの [POWER MANAGEMENT SETUP] の [Suspend Time Out (Minute)] を [Disabled] に設定する
☞ BIOS セットアップについて ☞ 「5 章 BIOS セットアップについて」
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす

- 5 LANケーブルのジャックを本体背面のLANコネクタに差し込む
パチンと音がするまで差し込んでください。



- 5 LANケーブルのもう一方のジャックをHUB（ハブ）のコネクタに差し込む
HUB（ハブ）の接続先やネットワークの設定は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

3 テクニカル情報

Fast Ethernet ケーブル

100BASE-TX

100BASE-TXでは、2組のツイストペア・イーサネット（TPE）ケーブルによる100Mbpsの転送をサポートしており、カテゴリ5（CAT5）のケーブルを使用します。100BASE-TXのセグメント長は、最大100メートルに制限されています。

Fast Ethernet HUB（ハブ）

さまざまなFast Ethernet仕様をサポートするHUBが次々に発表されています。これらのHUBは大きく分けて、シェアードHUBとスイッチングHUBの2つのタイプがあります。EQUIUMシリーズのLANインタフェースでは、どちらのタイプのHUBでも使用できます。

シェアードHUB（ハブ）

シェアードHUBを使用しているネットワーク環境では、全ポートが固定の帯域幅（データ容量）を共有しています。100MbpsのシェアードHUBの場合、ハブ上の全ノードが100Mbpsの帯域幅を共有しなければなりません。ハブに新たなステーションが追加されると、個々のステーションが使用できる有効帯域幅は減少します。シェアードHUBは、全車が1レーンを共有する単一レーン的高速道路にたとえられます。高速道路上に車が増えると、トラフィックは混雑し、各車の移動に要する時間は増大します。シェアードHUBの場合、全ノードが同一の転送速度（10Mbpsまたは100Mbps）で動作しなければなりません。Fast Ethernet HUBの場合、10BASE-Tリピータの10倍の100Mbpsの帯域幅を提供します。

スイッチング HUB (ハブ)

スイッチング HUB を使用しているネットワーク環境では、各ポートに固定の専用帯域幅が割り当てられます。高速道路の例で言うと、各車が他の車と共有しない独自のレーンを持つこととなります。

スイッチング HUB では、データは送信先ステーションにつながるポートにだけ送信されます。ネットワークの帯域幅は全ステーションに共有されているのではなく、HUB に接続された個々のステーションがそれぞれのネットワークの全帯域幅を使用することができます。このためスイッチングハブではネットワークで使用できる帯域幅の合計が効果的に増大するので、パフォーマンスが大きく向上します。

スイッチング HUB では、一部のノードを 10Mbps で使用し、他のノードを 100Mbps で使用できるものもあります。スイッチングハブは洗練された設計により、このようなパフォーマンス上の利点を持ちますが、1 接続あたりの費用は一般にシェアード HUB より高価になります。

4 Windows 98 / 95 のネットワーク設定について

本装置をネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。本装置を接続するネットワークの、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。購入時は既定値 (Default) が設定されています。既定値のままネットワークに接続すると、ネットワークに障害をもたらす場合があります。また、セットアップが終了し、Windows 98 または 95 の起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。後述の「起動時のパスワードの入力」を参照のうえ、パスワードを入力してください。



注意 ・購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows 98 または 95 のセットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows 98 または 95 のセットアップを行なってください。



・ネットワーク設定は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

お願い

● ネットワークの設定

画面の表示例は Windows 98 の画面です。Windows 95 の場合は、異なります。

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定]- [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [ネットワーク] アイコンをダブルクリックする
- 3 [ネットワークの設定] タブをクリックし、変更を行う
コンピュータに接続されているネットワークアダプタによって、画面内のアダプタ名は異なります。



(注) 画面は一例です。

ネットワーク管理者の指示に従い、ネットワークの設定を行なってください。

- ネットワーククライアント ほかのコンピュータに接続する機能です。
- プロトコル コンピュータが通信するための言語です。通信する複数のコンピュータどうしは、同じプロトコルを使用する必要があります。
- アダプタ コンピュータを物理的に接続するハードウェアデバイスです。
- サービス このコンピュータのファイルやプリンタなどのリソースを、ほかのコンピュータから使えるようにします。

4 [識別情報] タブ (Windows 95 の場合は [ユーザー情報]) タブをクリックし、コンピュータ名、ワークグループ名をネットワーク管理者の指示に従い、設定する



(注) 画面は一例です。



注意

- ・コンピュータ名とワークグループは必ず既定値 (Default、Default_Wg) の状態から変更してください。既定値のままのコンピュータを複数台ネットワークに接続しますと、コンピュータ名が重複し、次のエラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。



- 5 [アクセス権の制御] タブ (Windows 95 の場合は [アクセス権の管理]) タブをクリックし、変更を行う

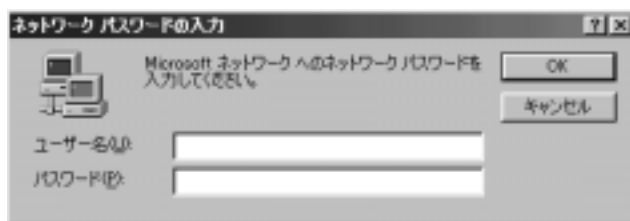


ネットワーク管理者の指示に従い、共有リソースへのアクセス権の管理方法を設定します。

- 6 設定が終了したら、[OK] ボタンをクリックし、パソコン本体を再起動する

● 起動時のパスワードの入力

- 1 パソコンの電源を入れる
- 2 ネットワーク管理者の指示に従い、ユーザー名と、パスワードを入力する
ここで表示されるダイアログボックスは、ネットワークの設定内容によって異なります (ネットワーククライアントの種類、ドメインサーバにログインするかどうかなど)。ここでは、次のダイアログボックスを例にあげていますが、他のダイアログボックスの場合もネットワーク管理者の指示に従い、入力してください。



メモ

・パスワードは、忘れないようにメモすることをおすすめします。

5 Windows 2000 のネットワーク設定について

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。



注意 ・ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows のセットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows のセットアップを行なってください。



お願い

・ネットワーク設定やコンピュータ識別は、必ずネットワーク管理者の指示に従ってください。

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定]-[コントロールパネル] をクリックする
- 2 [ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコンをダブルクリックする
- 3 [ローカルエリア接続] アイコンにマウスのポインタを合わせて右クリックする
- 4 プロパティを選択する
- 5 ネットワーク接続の設定を行う
セットアップ時に設定した構成になっています。
本製品の標準設定の場合、次のようになっています。

アダプタ : Intel (R) PRO/100 + Management Adapter
クライアント : Microsoft ネットワーク用クライアント
サービス : Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有
プロトコル : インターネットプロトコル (TCP/IP)

● ネットワーク上でのコンピュータ識別

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定]-[コントロールパネル] をクリックする
- 2 [システム] アイコンをダブルクリックする
- 3 [ネットワーク ID] タブを選択する
- 4 ネットワーク ID とプロパティの設定を行う
コンピュータ名、ドメイン/ワークグループ名はセットアップ時に設定した構成になっています。
変更する場合はここで再設定してください。

6 Windows NT のネットワーク設定について

本装置をネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。本装置を接続するネットワークの、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。



注意 ・ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows のセットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows のセットアップを行なってください。



お願い

・ネットワークの設定は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

ネットワークの設定

- 1 アドミニストレータ権限でログオンする
- 2 [スタート] ボタンをクリックし、[設定]-[コントロールパネル] をクリックする
- 3 [ネットワーク] アイコンをダブルクリックする
- 4 識別、サービス、プロトコル、アダプタ、バインドの設定を行う
詳細は付属の『ファーストステップガイド Microsoft Windows NT Workstation』の「ネットワークへの接続」の章をご覧ください。
なお、出荷時のネットワークの構成は次のようになっています。

アダプタ	: Intel (R) PRO/100 + Management Adapter
プロトコル	: NetBEUI
識別	: WORKGROUP
コンピュータ名	: 初期セットアップ時に入力した名前

プロトコル等を追加する場合「Windows NT Workstation Ver4.0 Disc1 ラベルの付いた CD-ROM を挿入してください」というダイアログボックスが表示される場合があります。

この場合は、「ファイルのコピー」ダイアログボックスの「ファイルのコピー元 (C:)」に「C:¥ i386」と入力して [OK] ボタンを押してください。



注意 ・TCP/IP プロトコルなどを追加した場合には、設定完了後、Windows NT Service Pack6 をインストールしてください。

● 起動時のパスワードの入力

1 パソコンの電源を入れる

2 ネットワーク管理者の指示に従い、ユーザー名と、パスワードを入力する
ここで表示されるダイアログボックスは、ネットワークの設定内容によって異なります（ネットワーククライアントの種類、ドメインサーバにログインするかどうかなど）。ここでは、次のダイアログボックスを例にあげていますが、他のダイアログボックスの場合もネットワーク管理者の指示に従い、入力してください。



・パスワードは、忘れないようにメモすることをおすすめします。

メモ


3 プリンタの接続

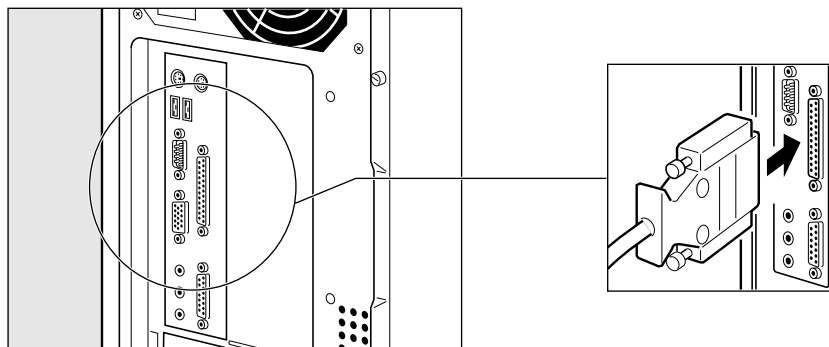
1 プリンタの接続



メモ

・プリンタの接続はプリンタによって異なります。詳しくはプリンタに付属の説明書をご覧ください。

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 3 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす
- 4 プリンタケーブルを本体背面の平行コネクタ  に差し込む
コネクタの形状に合わせてしっかりと奥まで差し込んでください。また、プリンタケーブルに固定用ネジがあるときは手またはドライバなどでしっかり回して固定してください。



- 5 もう一方のプリンタケーブルをプリンタ側コネクタに差し込む
コネクタの形状に合わせてしっかりと奥まで差し込んでください。また、プリンタ側のコネクタに金具がついている場合は、金具でプリンタケーブルを固定してください。

② プリンタ設定について

ここでは本体に接続したプリンタを使用可能にする設定方法を説明します。
Windows 98 での画面表示を例にして説明します。Windows 95 / 2000 / NT の
場合、画面は異なります。

☞ 詳細について ☞ 『ご使用のプリンタに付属の説明書』

1 [スタート] ボタンをクリックして、[設定(S)]-[プリンタ(P)] をク リックする

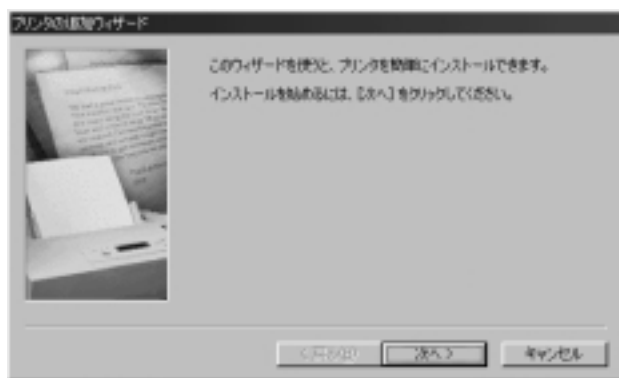
次の [プリンタ] の設定画面が表示されます。



2 [プリンタの追加] アイコンをダブルクリックする

次の [プリンタの追加ウィザード] が表示されます。

[次へ] ボタンをクリックすると次の設定に移ります。以降の設定作業は、画面に表示される
質問に答えながら作業を進めます。

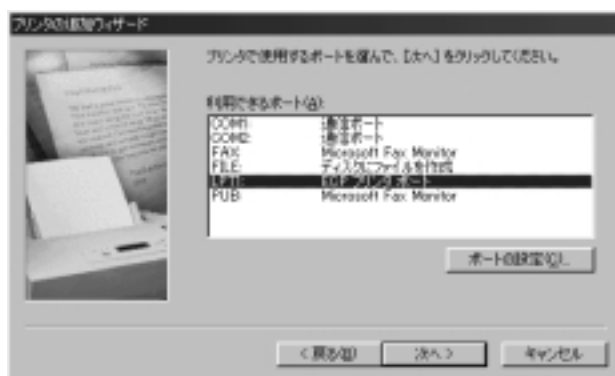


プリンタ設定作業の途中で、次の [プリンタの追加ウィザード] が表示されます。
 ここでは、プリンタの製造元とプリンタ名を選択して [次へ] ボタンをクリックします。
 一覧にない場合は、プリンタの製造元から配給されたプリンタドライバのインストールディスクをセットし、[ディスク使用 (H)] ボタンをクリックします。



(注) 画面は一例です。

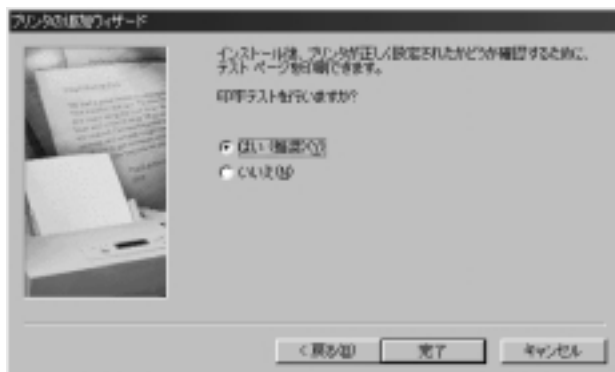
プリンタ設定作業の途中で、次の [プリンタの追加ウィザード] が表示されます。
 ここでは利用するポートを選択します。
 プリンタが本体のプリンタコネクタと接続されているときは、[LPT1 : プリンタポート] を
 選択して [次へ] ボタンをクリックしてください。



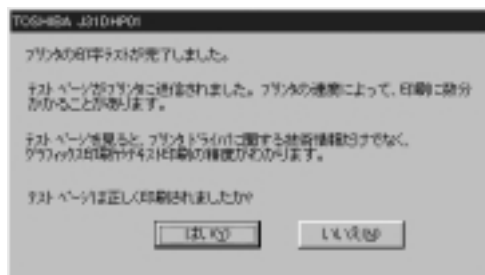
(注) 画面は一例です。

プリンタ設定作業の途中で、次の [プリンタの追加ウィザード] が表示されます。
 ここではプリンタ機能が正常かどうかを確認するために、テストページを印刷するかを選択
 します。

印刷する場合は、[はい (推奨) (Y)] をチェックし、しない場合は [いいえ] をチェックして [完了] ボタンをクリックしてください。



[はい (推奨) (Y)] をチェックした場合、しばらくすると「プリンタの印字テストが完了しました」というメッセージの画面が表示されます。テストページが正しく印刷されているときは、[はい] ボタンをクリックしてください。印刷結果に異常がある場合は、[いいえ] ボタンをクリックしてください。『Windows のヘルプ』が表示されますので、質問に答えながら設定を変更してください。また、本体とプリンタが正しく接続されているかも確認してください。



(注) 画面は一例です。


[プリンタ] の設定画面に戻り、新規に登録されたプリンタのアイコンが表示されます。これでプリンタの設定作業は終了です。

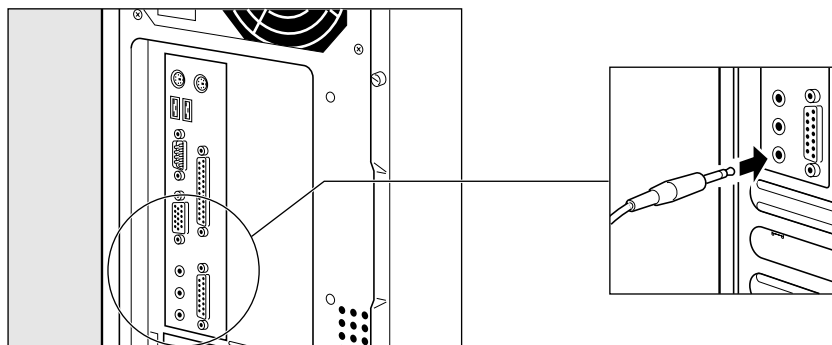


(注) 画面は一例です。

4 マイク（別売り）の接続

本製品では、マイク（別売り）を接続できます。使用可能なマイクは、インピーダンス 600 以上のコンデンサマイクロホンの 3.5 mm モノラルミニジャックタイプです。

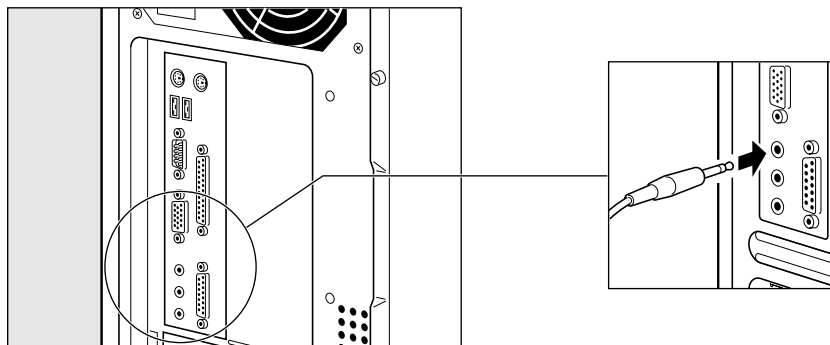
- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 3 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす
- 4 マイクのプラグを本体背面のマイク端子  に差し込む
しっかりと奥まで差し込んでください。



5 スピーカ（別売り）の接続

本製品では、アンプ付きスピーカ（別売り）を接続できます。

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 3 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす
- 4 スピーカのプラグを本体背面の LINE OUT 端子 (☎) に差し込む
しっかりと奥まで差し込んでください。



6 本体カバーの取りはずし、取り付け

- !** 注意 ・オプションの装着などの取り付け・取りはずし以外では、本体カバーを開けないでください。故障の原因となる可能性があります。
・本体カバーや基板などで指を傷つけないように、作業用手袋の使用をおすすめします。

システムを拡張する場合、さまざまなオプションの取り付け位置は本体内部であるため、本体カバーを取りはずすことが必要です。

先に本体カバーの取りはずし方、取り付け方をまとめて説明します。

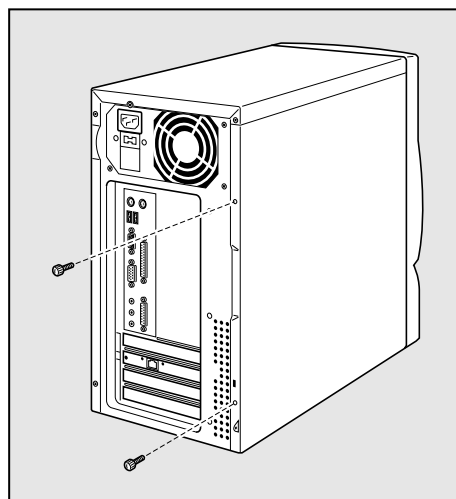
それぞれのオプションの取り付け、取りはずしについては次節より説明します。

1 本体カバーの取りはずし

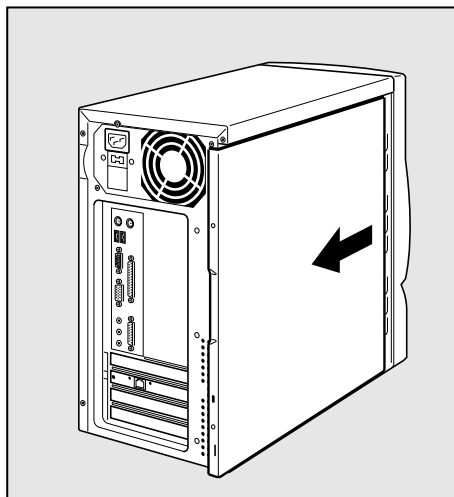
- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずし、本体背面に接続されているすべてのケーブルを取りはずす

- !** 注意 ・電源を切っただけではメインボードなどは通電状態となっています。通電状態でコネクタの抜き差しを行うと、故障の原因となります。
必ず電源コードを抜いてから作業を行ってください。

- 5 本体背面のネジ 2 本をはずす

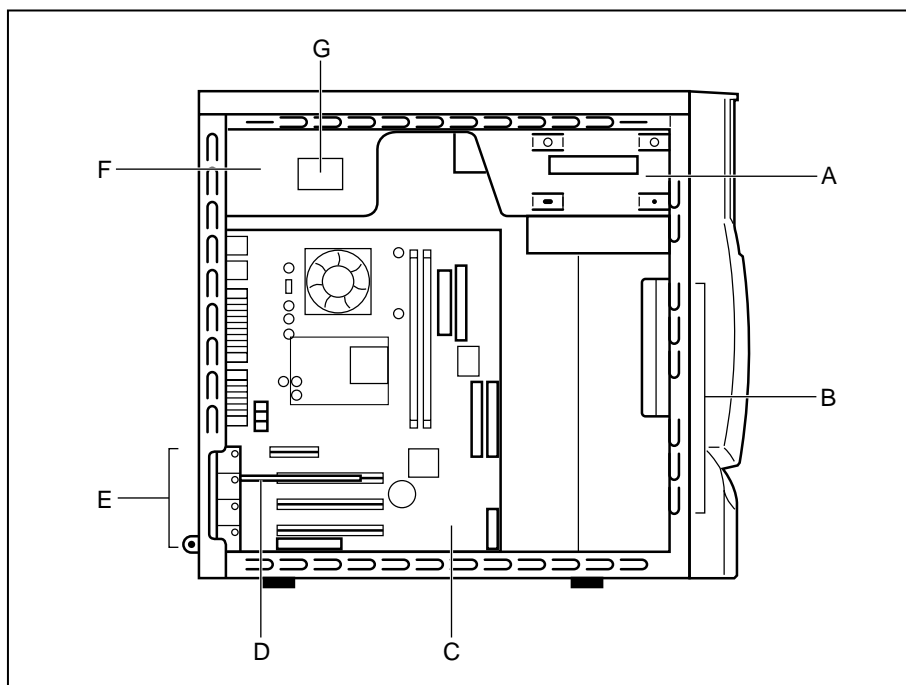


6 本体カバーを後方へずらし、取りはずす



注意 ・カバーの取り扱いに注意してください。
落としたり、ぶついたりして手や足をケガするおそれがあります。

② 本体カバーを取りはずしたところ（横面から）



F、G 以外はユーザ作業エリアです。

A. ファイルスロット

CD-ROM 装置 1 個が標準で内蔵 5 型ベイは 1 個

B. ハードディスクスロット

ハードディスク装置 1 個が標準で内蔵

C. メインボード

D. LAN カード

E. 拡張スロット

F. 電源ユニット

G. 電源警告ラベル

（電源ユニットのカバーははずさないでください。内部には高電圧部分があり、感電・火災・故障のおそれがあります。）



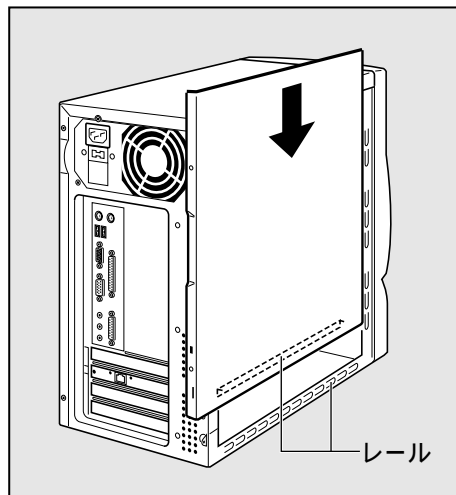
注意

・ユーザ作業エリア以外は分解しないでください。

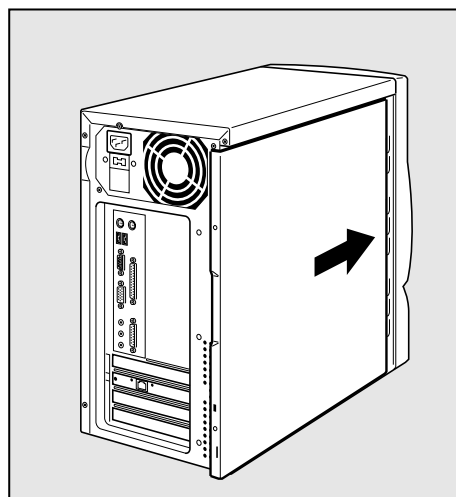
高電圧部による感電のおそれがありますので、絶対に触れないでください。

3 本体カバーの取り付け

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 工具類や部品類を本体内部に残していないこと、部品類の取り付けが正しく、しっかり行われていることを確認する
- 3 本体カバーを、本体前面から 2 cm 程度離れた位置に、下側のレールを本体に合わせてのせる

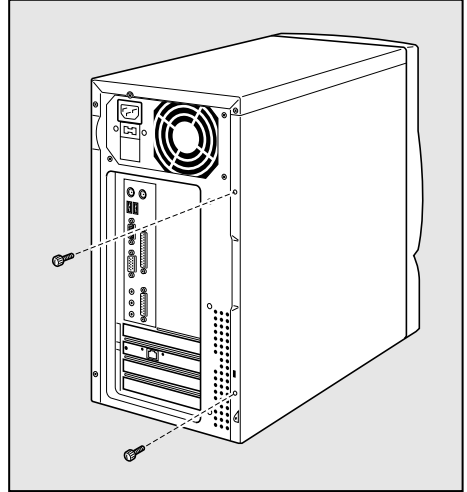


- 4 前方にスライドさせる



注意 ・ケーブル類をはさみ込まないようにしてください。

5 本体背面にネジ 2 本を取り付け、固定する



7 オプションカード



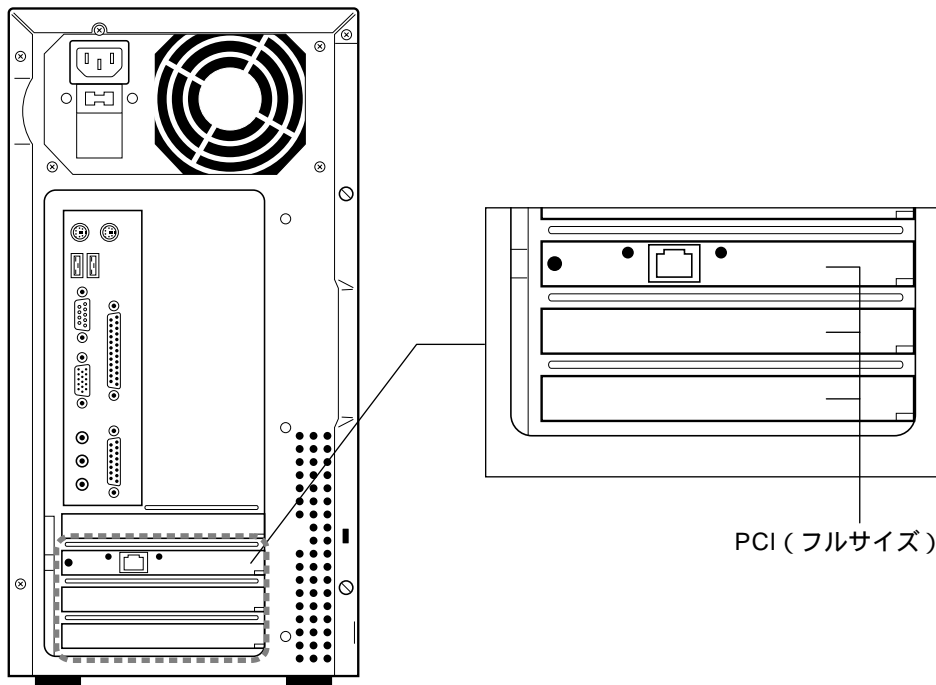
・PC97 規格に対応していないカードは正常に動作しない場合があります。

お願い

1 拡張スロットの位置

本体には PCI カード用のフルサイズの拡張スロットが合計 3 個用意されています（内 1 つは、LAN カードで使用）。

本製品では、PC97 規格に対応したオプションカードを使用できます。



注意 ・オプションカードの取り付けに際しては、拡張スロットの電流容量を超えないように注意してください。

👉 電流容量について

⇒ 「付録 2-8- 拡張スロットの電流容量」

⇒ 『各オプションカードに付属の説明書』



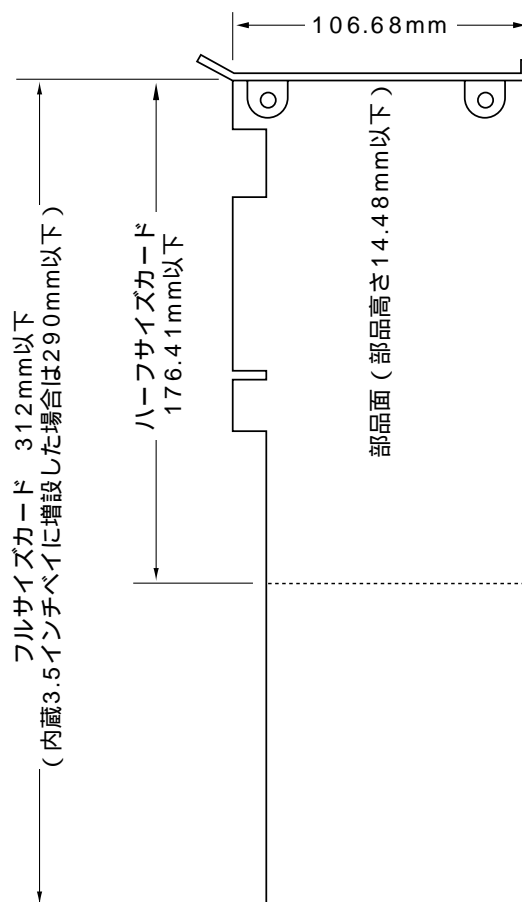
お願い

・オプションカードは、特に静電気に対して敏感で、その取り扱いには注意が必要です。カードを持つときは、カードの縁を持つようにして、部品や金メッキ部分には触らないようにしてください。保護袋や本体からカードを抜き出したときには、水平で、接地された、静電気の無いところに、部品面を上にして置くようにしてください。カードは、どんな面の上でも、滑らせて移動させないでください。

● オプションカード外形図

各スロット用のカードの種類と本体に装着可能なカードの外形図を示します。

● PCI タイプカード外形図



② オプションカードの取り付け



お願い

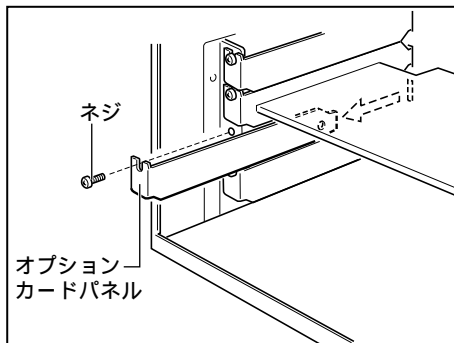
・この作業を行うとき、メインボードや他のボードの部品を損傷しないように注意してください。

1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

2 本体カバーを取りはずす

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

3 オプションカードパネルを固定しているネジ 1 本をはずしてパネルを取りはずす
取りはずしたパネルは、大切に保管しておいてください。



4 保護袋からオプションカードを抜き出し、水平で、接地された、静電気の無いところに、部品面を上にして置く

保護袋は再度取りはずしたときのために保管しておいてください。

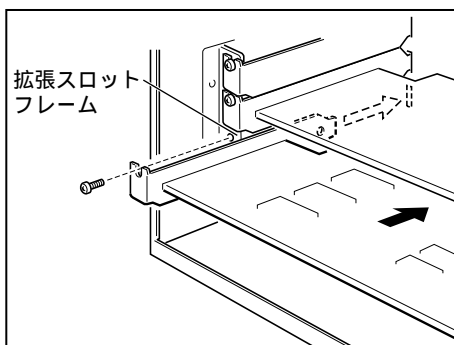
5 オプションカードのジャンパやスイッチの設定が必要な場合は、付属の説明書に従って設定する



メモ

・Windows NT の場合、プラグアンドプレイには対応していません。

6 カードの上の縁、または上の角のところを持って、図のようにカードをセットする
オプションカードのエッジ（金メッキ部分）を拡張スロットコネクタにしっかり合わせて押し入れます。



注意 ・オプションカードには鋭い突起があります。取り付け作業時には、指を傷つけないように、作業用手袋の使用をおすすめします。

7 拡張スロットフレームのネジ穴と、オプションのコネクタパネルの切れ込みを合わせる

コネクタパネルは、オプションカードパネルのあった場所にぴったりと納まります。

- 8 ネジを止める
ネジをしめる前に、コネクタパネルをネジの方に、上に寄せるようにします。これを怠ると、このパネルが、隣のスロットのカバーやオプションカードに接触してしまいます。
- 9 必要があれば取り付けしたオプションカードにケーブル類を接続する
- 10 本体カバーを取り付ける
☞「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

3 オプションカードの取りはずし

オプションカードの取りはずし方法について説明します。取り付け時の図を参照しながら作業を進めてください。

☞「本節 2 オプションカードの取り付け」

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 本体カバーを取りはずす
☞「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」
- 3 オプションカードに接続されているケーブルがあれば、はずす
再度取り付けるときのために、取りはずしたケーブルは大切に保管しておいてください。
- 4 オプションカードのコネクタパネルと本体を止めているネジをはずす
- 5 オプションカードの縁を持って、カードが拡張スロットコネクタからはずれるまで引き抜く

! 注意 ・オプションカードには鋭い突起があります。オプションカードを引き抜くときは手を傷つけないよう手袋などで保護してください。

- 6 オプションカードを、静電気対策された保護袋に入れて保管する
- 7 取りはずしたときに保管してあったオプションカードパネルを、取り付けてネジ止めする

! 注意 ・空いたスロットには必ずオプションカードパネルをつけるようにしてください。電磁ノイズと機器の冷却に問題が起きることがあります。

- 8 本体カバーを取り付ける
☞「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

8 増設ハードディスク装置

本装置の、IDE インタフェースにIDE ハードディスク装置を接続し、増設する方法について説明します。

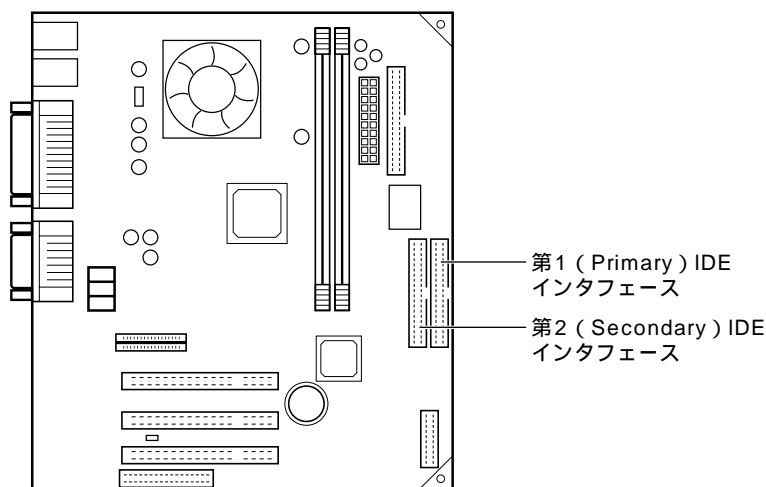
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

1 IDE インタフェースについて

IDE 装置は、本装置のメインボード上の第 1 (Primary) IDE インタフェースに 2 台、第 2 (Secondary) IDE インタフェースに 1 台の、合計 3 台まで接続することができます。

それぞれのIDE インタフェースに接続する装置は、1 台目をマスタ (Master)、2 台目をスレーブ (Slave) と呼びます。

本装置ではすでに、第 1 (Primary) IDE インタフェースのマスタ (Master) にハードディスク装置、第 2 (Secondary) IDE インタフェースのマスタ (Master) に CD-ROM 装置が接続されています。



2 増設ハードディスク装置のジャンパについて

IDE インタフェースに増設ハードディスク装置を接続する場合は、各増設ハードディスク装置にマスタ (Master) とスレーブ (Slave) の設定を行う必要があります。

接続時の注意

本装置にIDE 装置を増設する場合は、必ず次の表のように増設を行なってください。

第 1 (Primary) IDE インタフェース		第 2 (Secondary) IDE インタフェース
マスタ (Master)	スレーブ (Slave)	マスタ (Master)
ハードディスク装置接続済	増設 1 台目	CD-ROM 装置接続済

☞ 増設ハードディスク装置の取り付け ☞ 『増設ハードディスク装置に付属の説明書』



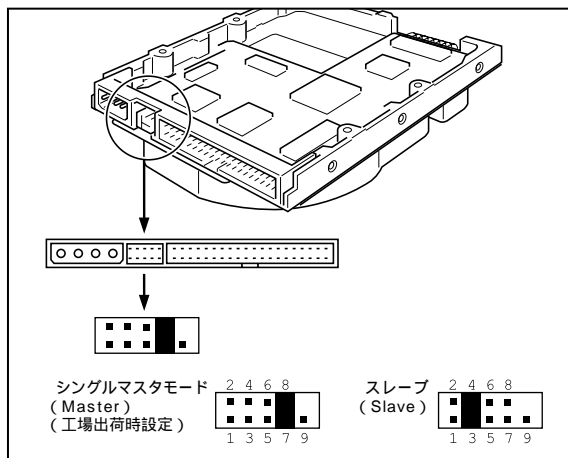
注意 ・増設ハードディスク装置はEQUIUM専用のオプションをお買い求めください。取り付けについてはオプションに付属の説明書をご覧ください。
 なお、PV3000シリーズ専用の増設ハードディスク装置は、ご利用になることはできません。

● 第1 (Primary) IDE インタフェースにハードディスク装置を増設する場合

接続済みのハードディスク装置背面のジャンパストラップをシングルモードからマスター (Master) に変更し、増設するハードディスク装置の設定をスレーブ (Slave) にしてください。

接続する増設ハードディスク装置のタイプ (A / B) によってジャンパの設定が異なります。接続する装置に合った設定を行なってください。

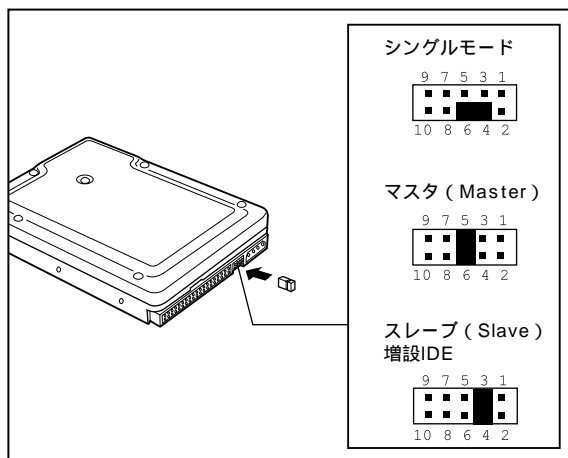
タイプ A の設定



お願い

・ハードディスク装置を1台で使用する場合は、ジャンパストラップをシングルマスター (Master) モードに設定してください。スレーブ (Slave) の設定では、動作しません。

タイプ B の設定



お願い

・ハードディスク装置を1台で使用する場合は、ジャンパストラップをシングルモードに設定してください。マスター (Master)、スレーブ (Slave) の設定では、動作しません。

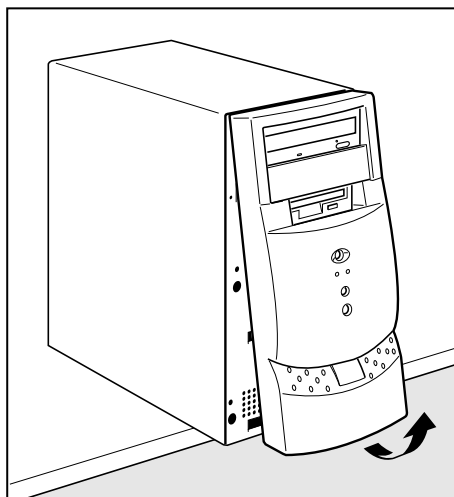
● 第2(Secondary)IDE インタフェースにハードディスク装置を増設する場合

第2(Secondary)IDE インタフェースには、1台のみ接続可能です(接続済みのCD-ROM装置は、出荷時にマスタ(Master)に設定されています)。

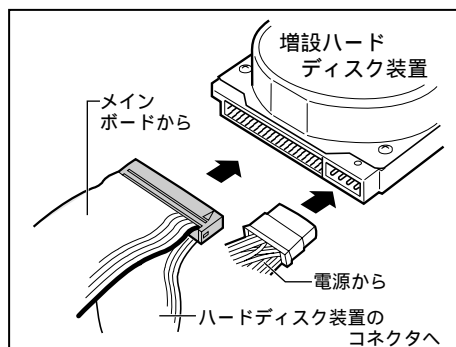
③ 増設ハードディスク装置の取り付け

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 本体カバーをはずす
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」
- 3 安定した台の端に本体を置く
- 4 フロントベゼルを取りはずす
フロントベゼル底面のくぼみに手をかけ、手前に強く引いてください。

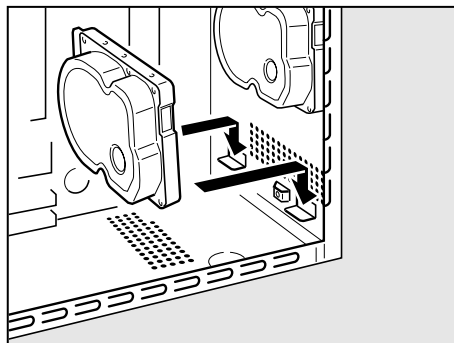
! 注意 ・台から本体が落ちないように、しっかりとおさえて作業を行なってください。



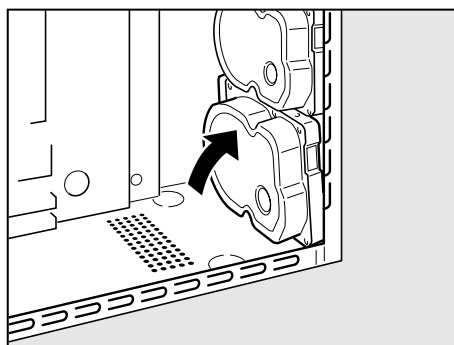
- 5 装置にケーブルを接続する
このときコネクタの向きに注意してください。装置を取りはずして、そのあとに取り付けを行わないのであれば、ケーブルはメインボードのコネクタからはずしておいてください。



- 6** ハードディスクの底面を、本体の増設ハードディスク装置用の台にのせる

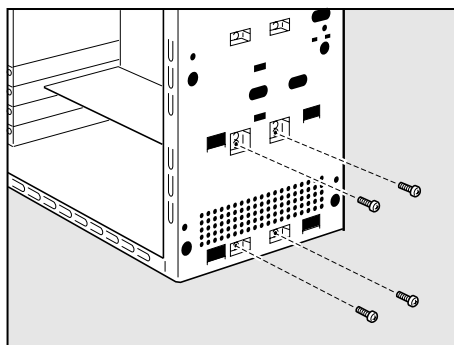


- 7** 倒れないように手でおさえ、ネジ穴の位置を合わせる

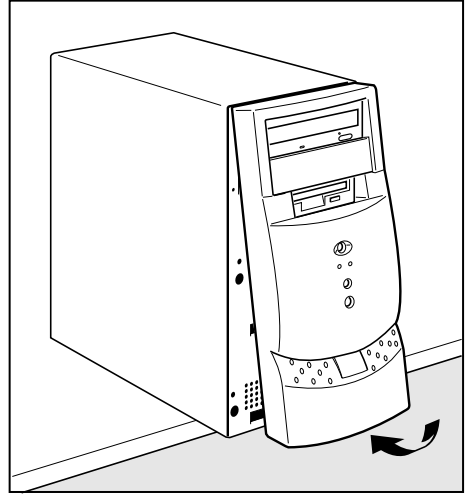


! 注意 ・ハードディスクを取り付けるときに、ケーブル類をはさみ込まないようにしてください。故障の原因となるおそれがあります。

- 8** ネジ4本で3.5型ドライブキャリアを本体に止める



- 9** フロントベゼルを取り付ける
CD-ROM 装置の位置を合わせてかぶせ、フロントベゼル中程と下側の左右を押してツメを押し込み、固定します。



- 10** 本体カバーを取り付ける
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

4 増設ハードディスク装置の取りはずし

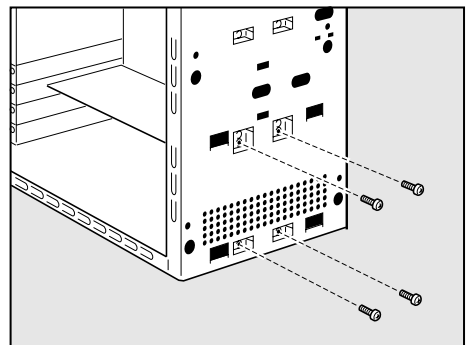
増設ハードディスク装置の取りはずし方法について説明します。取り付け時の図を参照しながら作業を進めてください。

☞ 「本節 3 増設ハードディスク装置の取り付け」

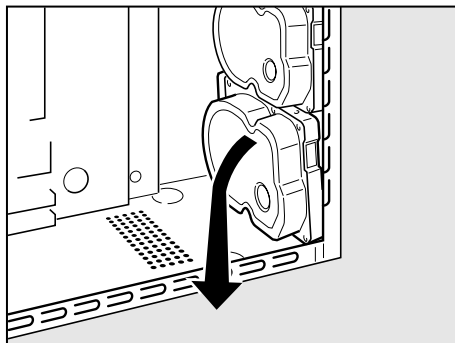
- 1** 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2** 本体カバーをはずす
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」
- 3** 安定した台の端に本体を置く
- 4** フロントベゼルを取りはずす

! 注意 ・台から本体が落ちないように、しっかりとおさえて作業を行ってください。

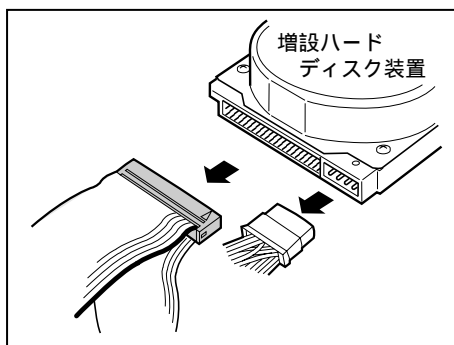
- 5** 増設ハードディスク装置を固定しているネジ 4 本をはずす
増設ハードディスク装置が倒れないように手で押さえながらネジをはずしてください。



- 6** 本体から増設ハードディスク装置を取りはずす



- 7** 増設ハードディスク装置からケーブルをはずす



☞ ケーブル機器の接続関係について ⇨ 「本章 12 内部ケーブルの接続」
再接続の際に、間違った接続をすると故障の原因となりますのでご注意ください。

- 8** フロントベゼルを取り付ける

- 9** 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

5 増設ハードディスク装置の設定

何もインストールされていないハードディスク装置を増設した後、システムに認識させるには、次の操作が必要です。

☞ ハードディスク装置の増設方法 ☞ 「本節 3 増設ハードディスク装置の取り付け」

Windows 98 / 95 の場合

ここではWindows 98 を例に説明します。

- 1 Windows 98 または Windows 95 を起動し、[スタート] メニューから [プログラム] - [MS-DOS プロンプト] を選択する
[MS-DOS プロンプト] 画面が表示されます。
- 2 FDISK と入力し、[Enter] キーを押す
次の画面が表示されます。

512MB以上のディスクがあります。このバージョンのWindowsでは、大容量のディスクのサポートが強化され、ディスク領域を有効に使えるようになりました。2GB以上のドライブを1つのドライブとしてフォーマットできます。

重要：大容量ディスクのサポートを使用可能にして、このディスクに新しいドライブを作成した場合、ほかのオペレーティングシステムを使ってこの新しいドライブにアクセスすることはできません（Windows 95とWindows NTの特定のバージョン、以前のバージョンのWindowsとMS-DOSを含む）。また、FAT32ファイルシステム用に設計されていないディスクユーティリティは、正常に動作しません。このディスクで他のオペレーティングシステムや以前のディスクユーティリティにアクセスする必要がある場合、大容量ドライブのサポートは使用しないでください。

大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか (Y/N)?[N]

[Y] を選択すると、FAT32 ファイルシステムに対応したオペレーティングシステム (EQUIM を含む) のみ使用可能になります。

[N] を選択すると、(旧) バージョンの Windows 95 でも使用可能になります。選択後、[Enter] キーを押すと FDISK オプションが起動します。

FDISKオプション

現在のハードディスク： 1

次のうちからどれか選んでください：

1. MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成
2. アクティブな領域を設定
3. 領域または論理MS-DOSドライブを削除
4. 領域情報を表示
5. 現在のハードディスクドライブを変更

どれか選んでください： [1]

FDISKを終了するにはEscキーを押してください。

- 3 [5] [Enter] とキーを押す
メニューの [5. 現在のハードディスクドライブを変更] が選択されます。

- 4 [2] [Enter] とキーを押す
増設したディスク 2 のハードディスク装置が選択され、FDISK オプションの初期画面に戻ります。

5 [1] **Enter** とキーを押す

[1. MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成] が選択されます。

6 [1] **Enter** とキーを押す

[1. 基本 MS-DOS 領域を作成] が選択されます。

7 **Enter** キーを押す

基本 MS-DOS 領域に使用できる最大サイズが割り当てられます。

8 **Esc** キーを 3 回押し、FDISK オプションを終了する**9** EXIT と入力し、**Enter** キーを押す

MS-DOS プロンプトが終了します。

10 [スタート] メニューから [Windows の終了(U)] - [コンピュータを再起動する(R)] を選択し、[はい(Y)] を選択する

システムが再起動します。

[マイコンピュータ] を起動し、増設したハードディスク (D :) が表示されていることを確認してください。

**11** [マイコンピュータ] 画面から [D :] ドライブを選択する**12** [ファイル(F)] メニューから [フォーマット(M)] を選択する

[フォーマット] 画面が表示されます。タイトルバーに「フォーマット (D :)」と表示されていることを確認してください。



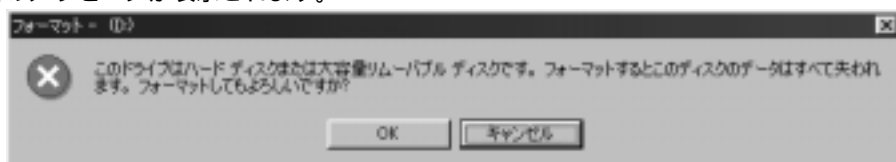
注意 ・選択するドライブを間違えないでください。フォーマットすると、ディスクの内容はすべて消去されてしまいます。



- 13** [フォーマットの種類] から [通常のフォーマット(F)] を選択し、[開始(S)] を選択する



警告のメッセージが表示されます。



- 14** 確認し、[OK] を選択する

フォーマットが終了すると、結果が表示されます。確認して [閉じる] を選択してください。

フォーマット終了後、スキャンディスク（ディスクのエラーをチェックする機能）が起動します。スキャンディスクが必要な方はメッセージに従って操作してください。

以上で増設ハードディスク装置の設定が終了し、使用できるようになります。

! 注意 ・増設ハードディスク装置の設定終了後は、システムを再起動してください。再起動しないとロングファイル名を使用できない場合があります。

Windows NT の場合

☞ ハードディスク装置の増設方法 ☞ 「本節 3 増設ハードディスク装置の取り付け」

1 Windows NT を起動し、Administrator 権限でログオンする

Administrator 権限のあるユーザ名、パスワードでログオンしてください。権限がない場合は、ネットワーク管理者に相談してください。

☞ 「2章 2-4 Windows NT のセットアップ」

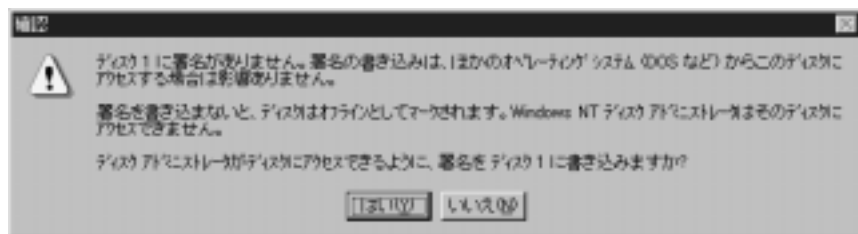
2 [スタート]メニューから [プログラム (P)] - [管理ツール (共通)] - [ディスクアドミニストレータ] をクリックする

ハードディスクを増設した後の最初の起動では、次のような画面が表示されます。



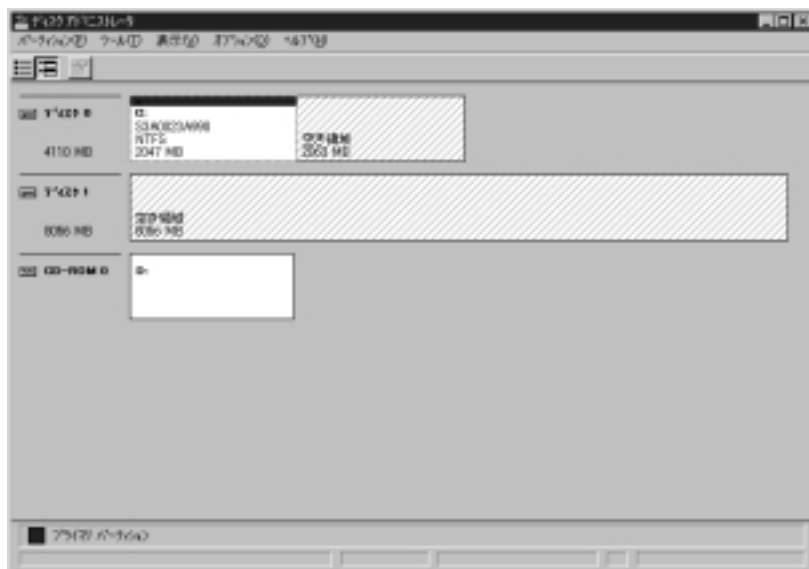
3 [OK] ボタンをクリックする

次のような画面が表示されます。



4 [はい (Y)] ボタンをクリックする

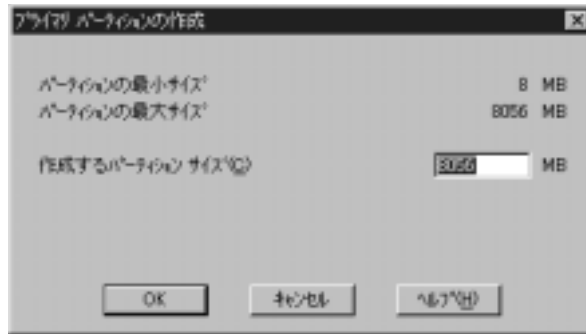
[ディスクアドミニストレータ] の画面が表示されます。



(注) 画面は一例です。

5 増設したハードディスク（例：ディスク 1）の「空き領域」をクリックする
「空き領域」全体が黒い太線で囲まれます。

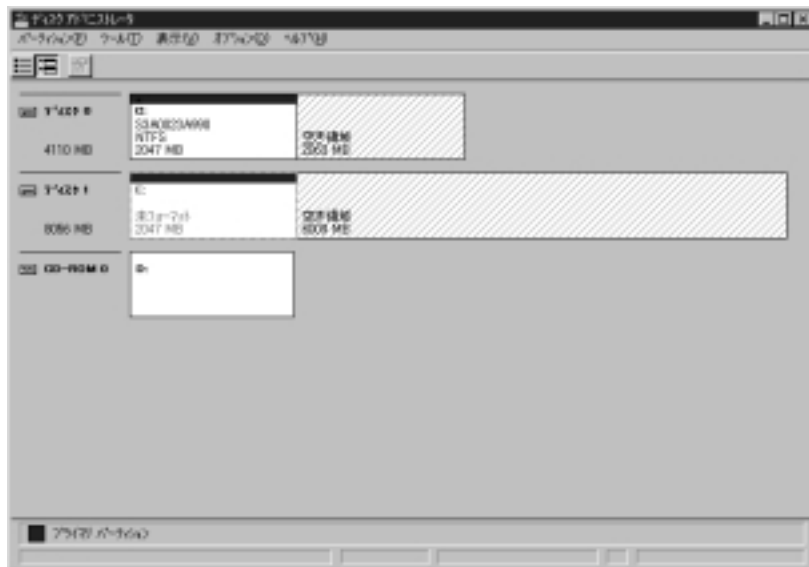
6 メニューの [パーティション (P)] - [作成 (C)] をクリックする
[パーティション (P)] - [拡張パーティションの作成 (E)] をクリックすると拡張パーティションが作成できますが、ここでは [作成 (C)] をクリックし、増設したディスク 1 にプライマリパーティション (E ドライブ) を作成する例を説明します。
[プライマリパーティションの作成] 画面が表示されます。



(注) 画面は一例です。

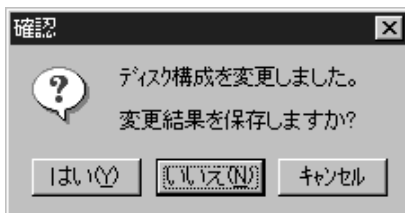
7 作成するパーティションサイズ（例：2048）を入力する
既定値として表示されている値は、ディスク 1 に作成可能な最大サイズが表示されています。ここでは、パーティションサイズとして 2048MB を指定する例を説明します。

8 [OK] ボタンをクリックする
次のような画面が表示されます。



(注) 画面は一例です。

- 9** [パーティション(P)]-[今すぐ変更を反映(O)]をクリックする
次のような画面が表示されます。



- 10** [はい(Y)] ボタンをクリックする

次のような画面が表示されます。ハードディスクのフォーマット作業が完了したら、システム修復ディスクの再作成を行なってください。

☞ システム修復ディスクの作成 ☞ 「2章 2-4 Windows NT のセットアップ」



- 11** ディスク1の「Eドライブ」をクリックする
Eドライブ全体が太線で囲まれます。

- 12** [ツール(T)]-[フォーマット(F)]をクリックする
[フォーマット]画面が表示されます。



13 [ファイルシステム (F)] で FAT または NTFS を選択し、[開始 (S)] をクリックする

次のような確認画面が表示されます。



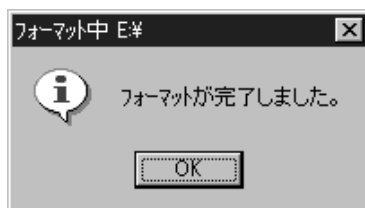
注意 ・フォーマットを開始すると、そのドライブのすべての情報 (ファイル) が消えます。



14 [OK] ボタンをクリックする

フォーマットを開始します。

フォーマットが完了すると次のような画面が表示されます。



15 [OK] ボタンをクリックし、画面を閉じる

16 [フォーマット] 画面の [閉じる (C)] ボタンをクリックし、[フォーマット画面を閉じる]

以上でフォーマットは完了です。

ドライブ文字を変更する場合には、[ツール (T)] メニューの [ドライブ文字の割り当て (V)] を選択してドライブ文字を変更してください。

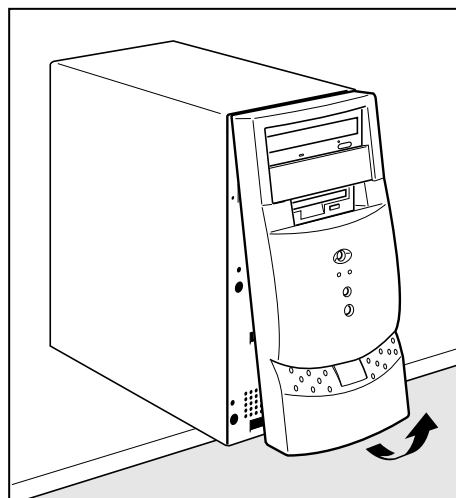
すべての作業が終了したら、ディスクアドミニストレータを終了してください。

9 増設 5 型装置

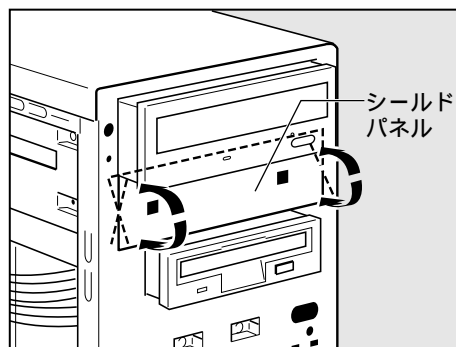
1 増設 5 型装置の取り付け

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 本体カバーを取りはずす
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」
- 3 安定した台の端に本体を置く
- 4 フロントベゼルを取りはずす
フロントベゼル底面のくぼみに手をかけ、手前に強く引いてください。

! 注意 ・台から本体が落ちないように、しっかりとおさえて作業を行なってください。

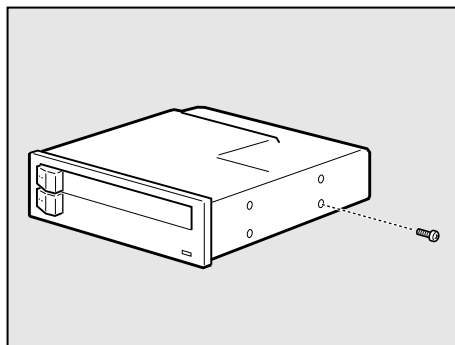


- 5 装着するオプション装置によっては、装置側のジャンプスイッチやディップスイッチの設定をする
☞ 設定について ☞ 『それぞれの装置に付属の説明書』
- 6 シールドパネルの矢印の位置を何度か押し、シールドパネルを取りはずす

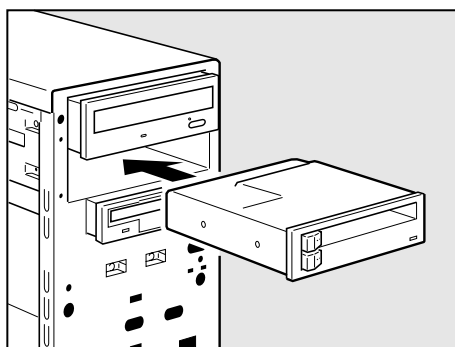


! 注意 ・シールドパネルを取りはずすときは、指を傷つけないように作業用手袋の使用をおすすめします。
シールドパネルを取りはずすときに折った部分はとがっていますので触れないでください。

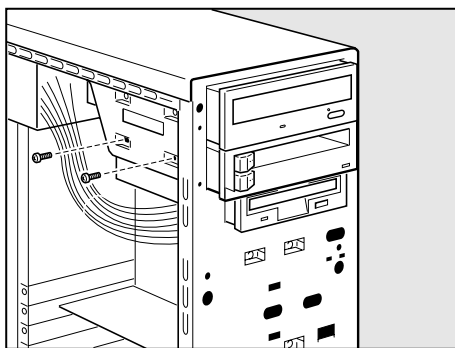
- 7** 本体同梱の増設 5 型装置専用取り付けネジを図の位置に取り付ける
オプション装置に付属のネジは、ここでは使用しないでください。



- 8** ファイルスロットにオプション装置を取り付ける

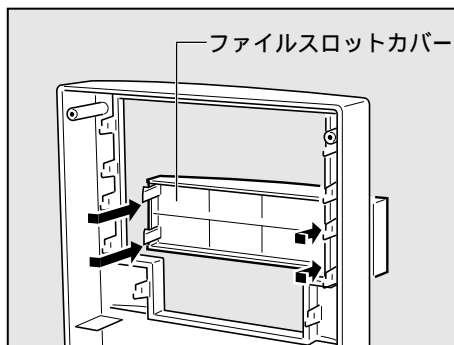


- 9** オプション装置に付属のネジ 2 本でオプション装置を固定する
本体同梱のネジ（増設 5 型装置専用取り付けネジ）は、ここでは使用しないでください。



- 10** オプション装置とケーブルを接続する
ケーブルが正しい場所に接続されているか確認してください。
☞ オプション装置のケーブル接続 ☜ 『オプション装置に付属の説明書』
- 11** 電源コネクタをオプション装置に接続する
- 12** 本体カバーを取り付ける
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

13 フロントベゼルに付いているファイルスロットカバーを取りはずす



・取りはずしたファイルスロットカバーはなくさないように大切に保管してください。

お願い

14 フロントベゼルを取り付ける

CD-ROM 装置の位置を合わせてかぶせ、フロントベゼルの中程と下側の左右を押してツメを押し込み、固定します。

15 電源コードを接続し、本体前面の電源スイッチを押して電源を入れる

16 必要があれば、BIOS セットアップを起動し、設定を変更する

☞「5章 BIOS セットアップについて」

2 増設5型装置の取りはずし

増設5型装置の取りはずし方法について説明します。取り付け時の図を参照しながら作業を進めてください。

☞「本節 1 増設5型装置の取り付け」

1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

2 本体カバーを取りはずす

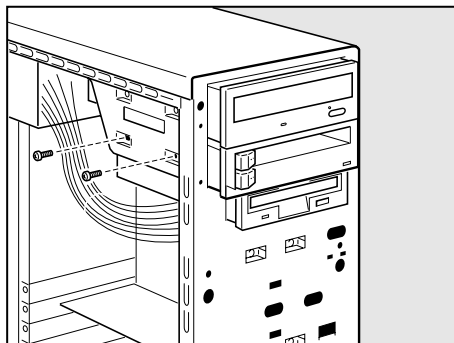
☞「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

3 フロントベゼルを取りはずす

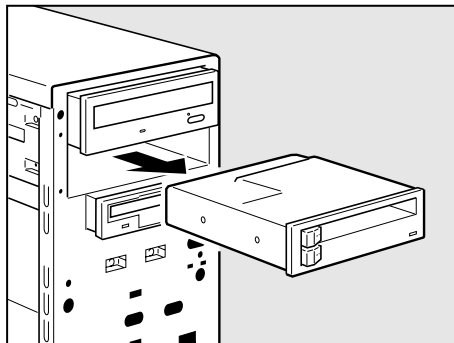
! 注意 ・台から本体が落ちないように、しっかりとおさえて作業を行なってください。

4 オプション装置に接続されている電源コネクタとケーブルをはずす

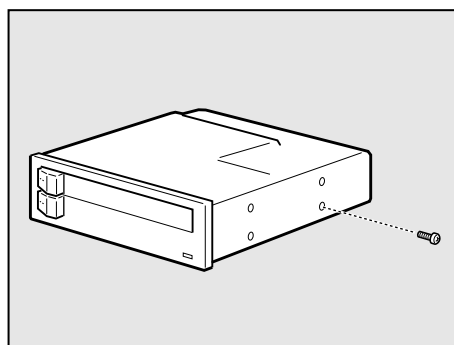
5 オプション装置を固定しているネジ2本をはずす



- 6** オプション装置を引き抜く
取りはずした装置は、適切な箱などに入れて大切に保管してください。



- 7** オプション装置から増設 5 型装置専用取り付けネジ 1 本をはずす



- 8** フロントベゼルにファイルスロットカバーを取り付ける

- 9** フロントベゼルを取り付ける

- 10** 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

- 11** 電源コードを接続し、本体前面の電源スイッチを押して電源を入れる

- 12** 必要があれば、BIOS セットアップを起動し、設定を変更する

☞ 「5 章 BIOS セットアップについて」

10 増設メモリカード



お願い

- ・必ずメモリカードに付属の説明書をお読みになったうえで作業を行なってください。
- ・使用できる増設メモリカードは1枚です。
- ・増設メモリカードの取り付けが難しいと思われる方は、保守サービスでの取り付けをおすすめします。同梱の『保守サービスのご案内』をご覧ください。お近くのサービスステーションに作業をご依頼ください（有償です）。

本装置には次のメモリカードが取り付けられます。

増設メモリカード	型番	対応システムバスクロック
増設64MBメモリカードB	PVP121JA	100MHz



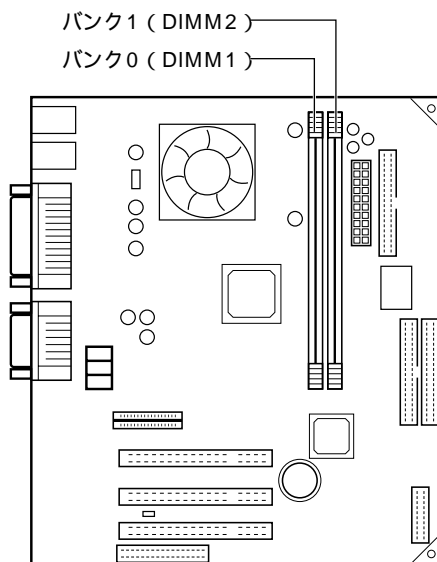
注意

- ・メインボードは、システムバスクロック 100MHz をサポートしています。メモリ増設の際は、ご使用のモデルにあったメモリを使用してください。異種のメモリを使用すると正常に動作しない場合があります。
- ・メモリカードを増設されるときは、必ず本製品のオプションをお買い求めください。その他の製品を使用することはできません。もし使用した場合は、本体が正常に動作しない、または故障の原因になります。



メモ

- ・上記に示した増設メモリカードはECC対応です。
- ・ECC対応のメモリカードとECC未対応のメモリカードを併用した場合、ECC機能はサポートされません。標準メモリはECC未対応です。標準メモリを取り付けたまま、増設メモリをECC対応のメモリカードにしてもECC機能はサポートされません。
- ・標準メモリのメモリカードを取りはずし、256MBのメモリカードを2枚実装することにより、最大512MBまで実装することができます。
- ・メモリ増設ソケットは、DIMM1がバンク0用、DIMM2がバンク1用です。バンク0には標準メモリが取り付けられています。



お願い

- ・カードエッジ（接点）は金メッキタイプを使用し、ハンダメッキは使用しないでください。本体が正しく動作しないことがあります。
- ・増設メモリカードは高さが26mm以内のものを使用してください。

1 増設メモリカードの取り付け

増設メモリカードの取り付け方法について説明します。

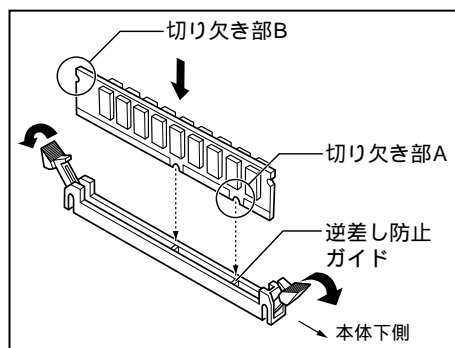
- !** 注意 ・増設メモリカードは、静電気に大変弱い部品で構成されています。身体に静電気を帯びた状態で増設メモリを扱うと、増設メモリが破壊する原因となります。増設メモリカードの取り付け/取りはずしを行う場合は、端子やICなどに触れないよう、縁を持ってください。

1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

2 本体カバーを取りはずす

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

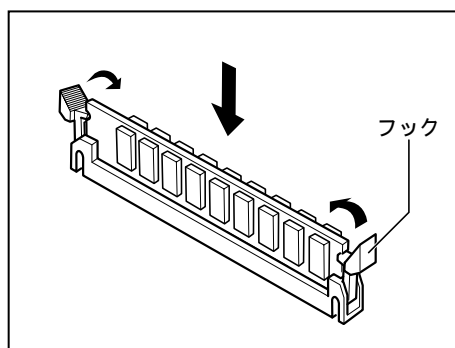
3 左右のフックを外側に倒し、増設メモリカードの切り欠き部 A を、メモリ増設ソケットの逆差し防止ガイドに合わせる



- !** 注意 ・増設メモリカードの挿入方向をまちがえないでください。まちがえて取り付けると増設メモリカードまたはメモリ増設ソケットを破損する原因になります。

4 左右のフックが切り欠き部 B に掛かるように、増設メモリカードをしっかりと押し込む

増設メモリカードが左右のフックで固定されます。



- !** 注意 ・増設メモリカードが完全に挿入されていない状態で、使用すると、異常動作したり、増設メモリカードまたはメモリ増設ソケットを破損する原因になります。
・内部のケーブルをメモリカードとソケットではさみ込まないようにしてください。



お願い

・メモリカードの接点（金メッキ部）がきちんとソケットに入っていることを確認してください。正常に取り付けられていないと、システムが正常に起動できなかったり、故障の原因となります。

5 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

以上で増設メモリカードの取り付けは完了です。

増設したメモリカードが認識されているか、確認してください。

メモリ増設の確認

1 [スタート] ボタンをクリックして、[設定(S)] をポイントし、[コントロールパネル(C)] をダブルクリックする

[コントロールパネル] 画面が表示されます。

2 [システム] アイコンをダブルクリックする

[システムのプロパティ] 画面が表示されます。



合計のメモリ量が表示されます。

(注) 画面は一例です。

3 [全般](Windows 95の場合は[情報]) タブのRAMの数値が合計のメモリ量と合っているか確認する

次のような場合は、増設メモリが正しく取り付けられていないか、故障している可能性があります。もう一度正しく増設メモリカードの取り付けを行なってください。

- ・電源が入らない
- ・システムが起動しない
- ・数値が合っていない



メモ

- ・VRAMとしてメインメモリを使用しているので、1MB少なく表示されます。

② 増設メモリカードの取りはずし

増設メモリカードの取りはずし方法について説明します。取り付け時の図を参照しながら作業を進めてください。

☞ 「本節 1 増設メモリカードの取り付け」



注意 ・増設メモリカードは、静電気に大変弱い部品で構成されています。身体に静電気を帯びた状態で増設メモリを扱くと、増設メモリが破壊する原因となります。増設メモリカードの取り付け/取りはずしを行う場合は、端子やICなどに触れないよう、縁を持ってください。

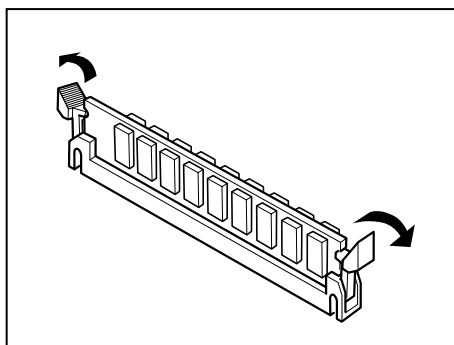
1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

2 本体カバーを取りはずす

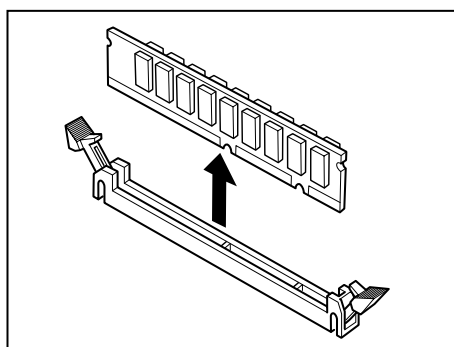
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

3 ソケットのフックを両側に開く

増設メモリカードが少し出てきます。



4 増設メモリカードを真上に引き抜く



5 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

11 内蔵バッテリーの交換

このバッテリーは時計およびシステム構成情報（BIOS セットアップの設定内容）を保持するためのものです。内蔵バッテリーを交換する（取りはずす）と、BIOS セットアップの再設定を行う必要があります。

通常の使用環境では、バッテリーの寿命は約 3 年です。

バッテリーが寿命に達すると、システム起動時に次のメッセージが表示されますので手順に従って交換を行なってください。

CMOS checksum Bad.



- 注意** ・本装置の内蔵バッテリーには、リチウム電池が使われています。リチウム電池の取り扱いについては、次の事を必ずお守りください。
- ・ 充電、電極除去、分解をしない
 - ・ 100 以上の加熱、焼却をしない
 - ・ 電池は水にぬらさない
 - ・ 子供が飲み込んだりしないよう、十分注意する
 - ・ 電池の内部の液がもれたときは、液にふれない
- リチウム電池を廃棄する場合は、地方自治体の条例、または規則に従ってください。

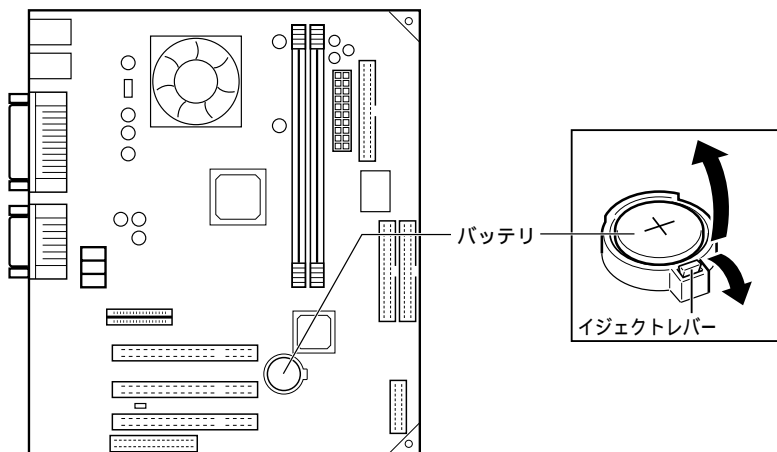


お願い

- ・ 電池を取りはずすと、システム構成情報（BIOS セットアップでの設定内容）が失われます。あらかじめシステム構成情報を控えておき、電池を交換した後で設定し直してください。本装置に使用できる内蔵バッテリーはCR2032 リチウム電池です。交換の際は、市販のCR2032 リチウム電池をお買い求めのうえ、ご使用ください。
- ☞ 「5 章 BIOS セットアップについて」

バッテリーの交換は必ず次の手順に従ってください。

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 本体カバーを取りはずす
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」
- 3 イジェクトレバーを図の の方向へ押す
バッテリーが少し浮き上がります。



お願い

- ・ バッテリーが浮き上がらない場合は、イジェクトレバーの部分だけを押しってください。ケースの部分と一緒に押さえていると、レバーは押せません。

4 新しいバッテリーを (+) を上にして取り付ける



お願い

- ・バッテリーの極性 (+、-) をまちがわないように取り付けてください。
+ 側は、「+」マークや「CR2032」と表示されている側です。

5 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」



お願い

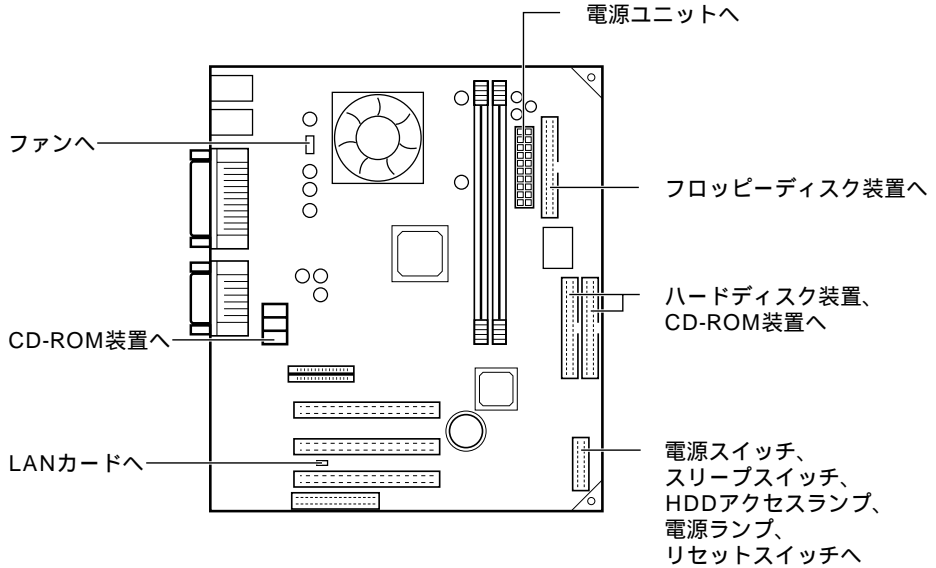
- ・BIOS セットアップの設定は、既定値の状態になっています。電源 ON 時に BIOS セットアップを起動し、再設定してください。

☞ BIOS セットアップについて ☞ 「5 章 BIOS セットアップについて」

12 内部ケーブルの接続

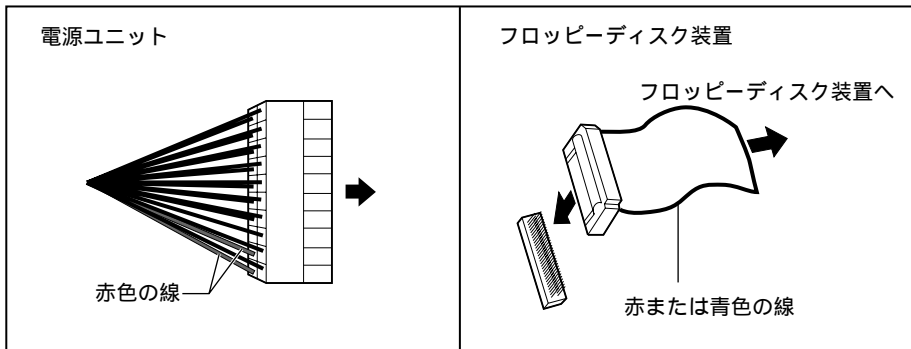
1 メインボードのコネクタ接続位置

各機種種のメインボードのコネクタ接続位置について説明します。
各コネクタの装置名は、接続先の装置を表します。

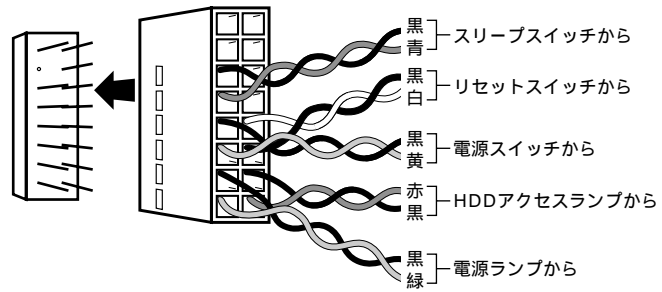


2 コネクタへの接続

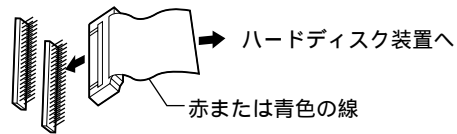
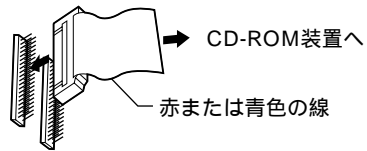
コネクタへの接続方法を説明します。
接続の際は、コネクタの形状やケーブルの色に注意してください。
各イラストのタイトルは、接続先の装置を表します。



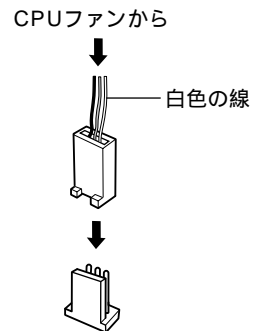
電源スイッチ、スリープスイッチ、HDDアクセスランプ、電源ランプ、リセットスイッチ



ハードディスク装置、CD-ROM装置



ファン

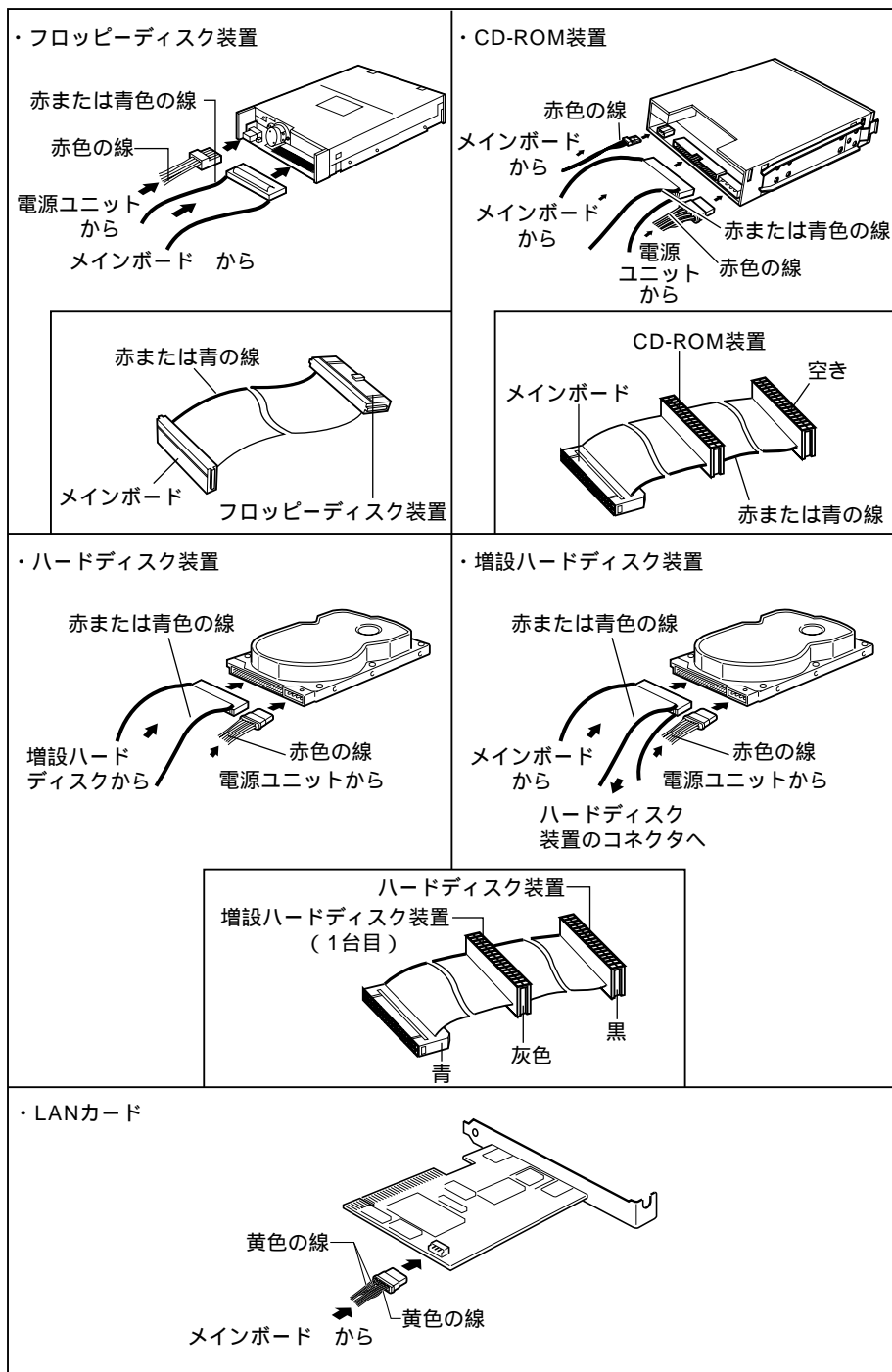


3 装置への接続

装置への接続方法を説明します。

接続の際は、コネクタの形状やケーブルの色に注意してください。

各イラスト中の「メインボード*から」という説明は、「メインボードのコネクタ接続位置」の接続装置名を表します。



5

BIOS セットアップについて

本章では、BIOS セットアッププログラムの使い方と機能について説明します。BIOS セットアッププログラムを使って、パソコン本体のシステム構成の設定や、パスワードの登録 / 削除などができます。

- 1** BIOS セットアップとは..... 148
- 2** BIOS を工場出荷時設定に戻すには 152
- 3** STANDARD CMOS SETUP の詳細 153
- 4** ADVANCED CMOS SETUP の詳細 155
- 5** ADVANCED CHIPSET SETUP の詳細 158
- 6** POWER MANAGEMENT SETUP の詳細 ... 159
- 7** PCI/PLUG AND PLAY SETUP の詳細 163
- 8** PERIPHERAL SETUP の詳細 165
- 9** Auto-DETECT HARD DISKS 168
- 10** Password の設定 169
- 11** 工場出荷時の設定値 171

① BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、パスワードやハードディスク、周辺機器の使い方などを本体に設定するプログラムのことです。

BIOS セットアップで設定された情報は、CMOS-RAM と呼ばれる特殊なメモリに保存され、電源を切っても設定した内容が消失しないように内蔵バッテリーで保持されます。メモリの増設やハードディスク装置の増設等の変更をしない限り、1 度 BIOS セットアップを行えば以降は必要ありません。ただし、内蔵バッテリーが消耗すると BIOS セットアップは既定値に戻りますので、設定した内容はメモをとるなどして忘れないようにしてください。



メモ

・ BIOS セットアップ画面は英語表示のみです。日本語での、項目 / 説明の表示はありません。

① BIOS セットアップの起動方法

1 電源を入れた直後（起動時）に **Delete** キーを押す

起動時に、次の「TOSHIBA」画面が表示されます。目安として、この画面表示中に **Delete** キーを押します。



お願い

・ **Delete** キーの入力が受け付けられるのは、パソコンの電源を入れてから数秒間です。この時間内に **Delete** キーを押さないと、システムが起動します。

BIOS セットアップが起動できなかった場合は、通常の終了操作を行なってパソコン本体の電源を切り、上記の手順 1 をやり直してください。



TOSHIBA

Press [Tab] to POST screen, [Del] to enter SETUP

② BIOS セットアップの操作方法

● BIOS セットアップ画面について

選択している項目はカーソルバーで反転表示されます。

AMIBIOS SETUP - POWER MANAGEMENT SETUP	
(C)1999 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved	
Power Management/APM	Enabled
Video Power Down Mode	Suspend
Hard Disk Power Down Mode	Suspend
Suspend Time Out (Minute)	Disabled
Keyboard & PS/2 Mouse Access	Monitor
FDC/LPT/COM Ports Access	Ignore
MIDI Ports Access	Ignore
Primary Master IDE Access	Ignore
Primary Slave IDE Access	Ignore
Secondary Master IDE Access	Ignore
Secondary Slave IDE Access	Ignore
PIRO [A] IRQ Active	Ignore
PIRO [B] IRQ Active	Ignore
PIRO [C] IRQ Active	Ignore
PIRO [D] IRQ Active	Ignore
Power Button Function	Instant Off
Restore on AC/Power Loss	last State
Resume On Ring Header	Disabled
Resume On LAN Header	Disabled
PCI Slot PME Function Support	Disabled

Available Options:
Disabled
▶ Enabled

ESC : Exit ↑↓ : Sel
PgUp/PgDn : Modify
F1 : Help F2/F3 : Color

選択している項目の設定値が表示されます。

や が表示された場合は、表示画面より上下に項目があることを示します。上下の項目を表示するためには キーを押します。

● 使用するキーについて

BIOS セットアップでは、マウスが使用できないため、キーボード上のキーで、メニューや項目の移動、値の入力などを行います。
ここでは、BIOS セットアップで主に使用するキーについて説明します。

キー

1 つ前の項目に移動します。

キー

1 つ先の項目に移動します。

PageUp キー

項目の選択値を 1 つ前の値に変更します。

PageDown キー

項目の選択値を 1 つ後の値に変更します。

F10 キー

現在の設定を保存し (CMOS-RAM に書き込み) BIOS セットアップを終了して、システムを起動します。

メインメニュー画面で、 F10 キーを押すと「Save current settings and exit (Y/N) ? Y」というメッセージが表示されます。設定を保存して終了する場合は

Y キーを、保存しないでセットアップを続ける場合は N キーを押して Enter キーを押します。

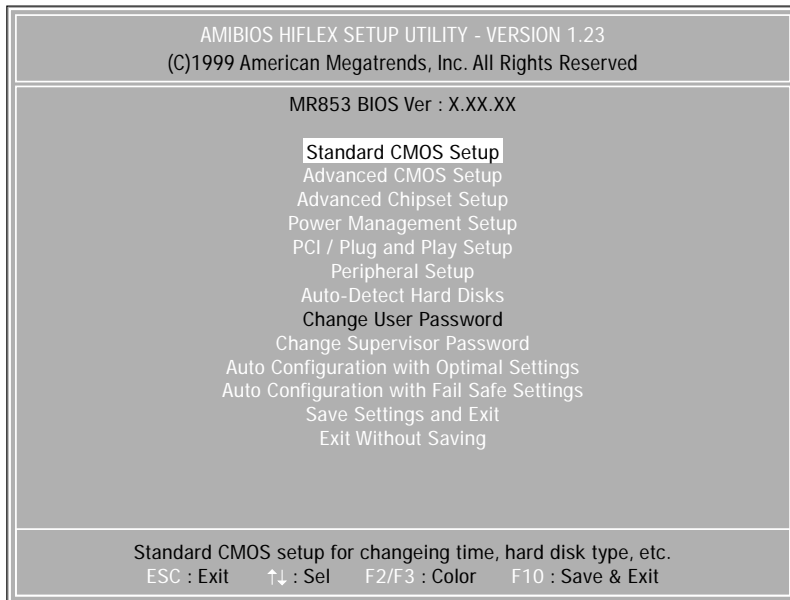
Esc キー

メインメニュー画面で **Esc** キーを押すと「Quit Without Saving (Y/N) ? N」というメッセージが表示されます。設定を保存しないで終了する場合には **Y** キーを、終了しないでセットアップを続ける場合は **N** キーを押して **Enter** キーを押します。

サブメニュー中では、1 つ前の状態に戻したり、1 つ前の画面を表示します。

3 BIOS セットアップの内容

メインメニューは次のような画面です。



BIOS セットアップには次のサブメニューがあります。

Standard CMOS Setup

日付や時間などを設定します。

Advanced CMOS Setup

起動する装置や、ディスプレイの表示などを設定します。

Advanced Chipset Setup

チップセットの設定をします。

Power Management Setup

省電力などの設定をします。

PCI / Plug and Play Setup

プラグアンドプレイの設定をします。

Peripheral Setup

周辺機器の設定をします。

Auto-Detect Hard Disks

接続されている装置を検出します。



メモ

- ・装置が接続されると [Standard CMOS Setup] の項目にある [Type] が [Auto] 以外の接続されている装置に変わります。
[Type] が [Auto] 以外の設定になると、ドライブを認識できなくなることがあります。
[Auto-Detect Hard Disks] を実行した後は、[Standard CMOS Setup] で [Type] の設定を [Auto] に変更してください。

Change User Password

ユーザパスワードの設定・変更をします。

スーパーバイザパスワードが設定されている場合のみ有効です。

Change Supervisor Password

スーパーバイザパスワードの設定・変更をします。

Auto Configuration with Optimal Settings

設定を初期状態に戻します。

Auto Configuration with Fail Safe Settings

設定をフェイルセーフの初期状態に戻します。

システムが正常に動かなくなってしまった場合のみ使用します。

Save Settings and Exit

設定した内容を CMOS に保存し、セットアップを終了します。

Exit Without Saving

CMOS の内容を変更せずにセットアップを終了します。

なお、BIOS セットアップの内容は出荷時期により多少異なる場合があります。

2

BIOS を工場出荷時設定に戻すには

- 1** BIOS セットアップを起動する
☞ BIOS セットアップの起動方法 ☞ 「本章 1-1 BIOS セットアップの起動方法」
- 2** メインメニューより「Auto Configuration with Optimal Settings」を選択し、**[Enter]**キーを押す
「Load high performance settings (Y/N) ? N」というメッセージが表示されます。
既定値に戻す場合は「Y」、戻さずにセットアップを続ける場合は「N」を選択します。
- 3** 各項目を工場出荷時の設定にする
☞ 工場出荷時の設定値 ☞ 「本章 11 工場出荷時の設定値」
- 4** **[Esc]**キーを押し、**[F10]**キーで設定を保存する
「Save current setting and exit (Y/N) ? Y」のメッセージが表示されるので「Y」が選択されていることを確認し、**[Enter]**キーを押します。
変更した設定を保存して終了します。

STANDARD CMOS SETUP では日時の設定、フロッピーディスク装置、ハードディスク装置の設定などを行います。

```

AMIBIOS SETUP - STANDARD CMOS SETUP
(C)1999 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved

Date (mm/dd/yyyy) : Sat Jul 01, 2000          Base Memory : 640MB
Time (hh/mm/ss)   : 12:30:00                  Extd Memory : 62 MB

Floppy Drive A : 1.44 MB 3 1/2
Floppy Drive B : Not Installed

                                LBA  Bk  PIO  32Bit
                                Mode Mode Mode Mode
Type      Size  Cyln  Head  WPcom  Sec
Pri Master : Auto
Pri Slave  : Auto
Sec Master : Auto
Sec Slave  : Auto

Boot Sector Virus Protection  Disabled

Month : Jan - Dec
Day   : 01 - 31
Year  : 1901 - 2099

ESC : Exit  ↑↓ : Sel
PgUp/PgDn : Modify
F1 : Help  F2/F3 : Color
  
```

(注) 画面は一例です。

Date (mm/dd/yyyy)

年(西暦)月日を設定します。

[月/日/年]の項目移動には、 キーまたは Tab キーを使います。

Time (hh/mm/ss)

時刻(24時間単位)を設定します。

[時:分:秒]の項目移動には、 キーまたは Tab キーを使います。

Base Memory

システムメモリ量を表示します。(表示のみ)

Extd Memory

拡張メモリ量を表示します。(表示のみ)

Floppy Drive A | Floppy Drive B

フロッピーディスク装置 A、B のタイプを設定します。

本装置は標準で、ドライブ (装置) A に [1.44 / 1.25MB 3 1/2"] タイプのフロッピーディスク装置を搭載しています。

- ・ Not Installed なし
- ・ 360KB 5 1/4"
- ・ 1.2MB 5 1/4"
- ・ 720KB 3 1/2"
- ・ 1.44MB 3 1/2" ... 3.5 型 3 モード
- ・ 2.88MB 3 1/2"

Pri Master | Pri Slave | Sec Master | Sec Slave

IDE インターフェース上の装置を設定します。

- ・ Pri Master メインボード上の第 1 (Primary) IDE インタフェースのマスタ (Master)
- ・ Pri Slave メインボード上の第 1 (Primary) IDE インタフェースのスレーブ (Slave)
- ・ Sec Master メインボード上の第 2 (Secondary) IDE インタフェースのマスタ (Master)
- ・ Sec Slave メインボード上の第 2 (Secondary) IDE インタフェースのスレーブ (Slave)

本装置は、標準状態でハードディスク装置が [Pri Master] に、CD-ROM 装置が [Sec Master] に設定されています。

Type

IDE 装置のタイプを設定します。

- ・ Auto 自動設定
- ・ CD-ROM CD-ROM 装置
- ・ FLOPTICAL フロッピーディスク装置
- ・ Not Installed 使用しない
- ・ 1 ~ 46 HDD のパラメータを選択することができます。
- ・ User HDD のパラメータを設定することができます。



お願い

- ・ [Auto] 以外の設定に変更するとドライブを認識できなくなることがあります。通常は変更しないでください。

Boot Sector Virus Protection

ハードディスクのブートセクタへの書き込みを禁止します。

- ・ Disabled 書き込み可
- ・ Enabled 書き込み禁止

アドバンスドメニューでは起動する装置の順番や周辺装置についての設定を行います。

AMIBIOS SETUP - ADVANCED CMOS SETUP (C)1999 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved			
CPU Ratio Selection	Locked	Available Options: Disabled IDE-0 IDE-1 IDE-2 IDE-3 ▶ Floppy LS-120/ZIP ATAPI ZIP CDROM SCSI NETWORK	
1st Boot Device	Floppy		
2nd Boot Device	IDE-0		
3rd Boot Device	CDROM		
BootUp Num-Lock	On		
Floppy Drive Swap	Disabled		
Floppy Drive Seek	Disabled		
PS/2 Mouse Support	Enabled		
Primary Display	VGA/EGA		
Password Check	Setup		
System BIOS Cacheable	Disabled		
C000, 64k Shadow	Cached		
D000, 64k Shadow	Disabled		
			ESC : Exit ↑↓ : Sel PgUp/PgDn : Modify F1 : Help F2/F3 : Color

(注) 画面は一例です。

CPU Ratio Selection

CPUの動作周波数を基本クロックの倍数で示します。

本装置では自動設定されるため、設定を変更しても無効となります。

- Locked

1st Boot Device

2nd Boot Device

3rd Boot Device

ドライブが起動する順番を指定できます。

- Disabled
- IDE-0
- IDE-1
- IDE-2
- IDE-3
- Floppy
- LS-120/ZIP
- ATAPI ZIP
- CDROM
- SCSI
- NETWORK

BootUp Num-Lock

この設定を Off に設定すると、パソコン本体が起動する際に NumLock キーをオフにします。

- On
- Off

Floppy Drive Swap

Enabled に設定すると、フロッピーディスク装置が 2 つある場合、ドライブを変換します。

- Disabled
- Enabled

Floppy Drive Seek

Enabled に設定すると、起動時にフロッピーディスク装置をシークします。

- Disabled
- Enabled

PS/2 Mouse Support

[Enabled] に設定すると、PS/2 マウスをサポートします。

- Enabled
- Disabled

Primary Display

ディスプレイモニタの種類とディスプレイアダプタを指定します。

- Absent
- VGA/EGA
- CGA40 × 25
- CGA80 × 25
- Mono

Password Check

パソコン本体が起動するたび、もしくは、BIOS のセットアップを実行するたびにパスワードチェックを行なうように設定できます。

パスワードが設定されている場合のみ有効です。

[Always] を選択すると、パソコンを起動するたびにパスワード入力画面が表示されます。

[Setup] を選択すると、BIOS のセットアップを実行するたびにパスワード入力画面が表示されます。

- Setup
- Always

System BIOS Cacheable

[Enabled] に設定すると、より速く動作させるために BIOS ROM の内容をコピーしているシステムメモリのセグメント「F0000h」部の内容を、2 次キャッシュに読み込んだり、2 次キャッシュに書き込むことができます。

- Disabled
- Enabled

C000, 64k Shadow

特定のメモリ領域から始まる ROM の内容を制御します。

[Disabled] ビデオ ROM の内容は RAM にコピーされません。RAM の内容をキャッシュメモリに読み込んだり、書き込んだりしません。

[Enabled]: 「C000h」 - 「DC00h」部の内容はシステムメモリ (RAM) の同じアドレスに書き込まれます。

[Cached]: RAM にコピーされた ROM の内容をさらにキャッシュメモリに読み込み、書き込みます。

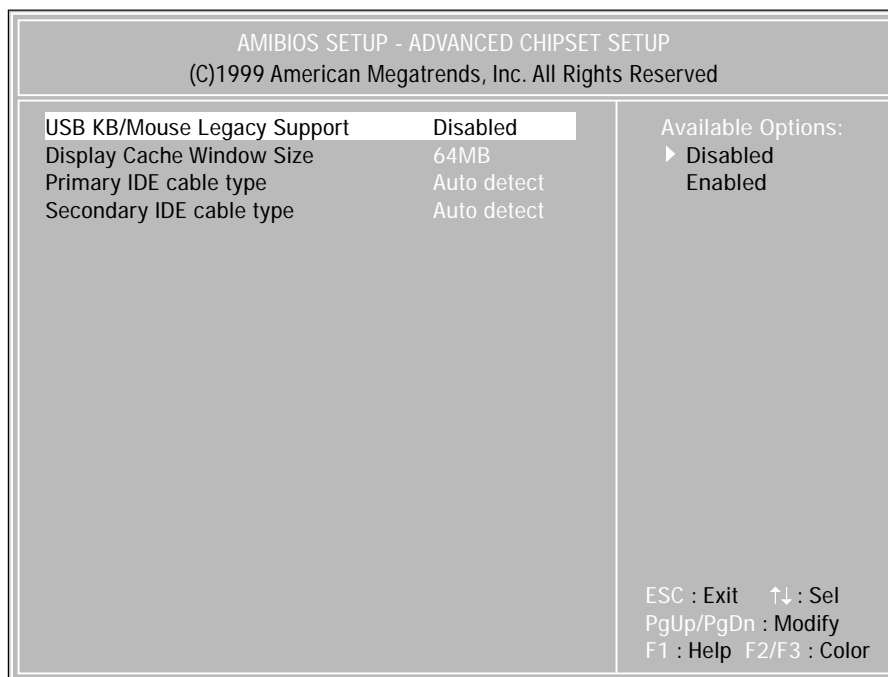
- Disabled
- Enabled
- Cached

D000, 64k Shadow

上記の「C000, 64k Shadow」と同様の機能です。

- Disabled
- Enabled
- Cached

周辺機器や本装置のチップセットの設定を行います。



(注) 画面は一例です。

USB KB/Mouse Legacy Support

レガシーキーボードおよびマウスのUSBサポートを有効にします。

- Disabled
- Enabled

Display Cache Window Size

ディスプレイのキャッシュウィンドウのサイズを設定します。

- 64MB
- 32MB

Primary IDE cable type Secondary IDE cable type

それぞれのIDEインタフェースで使用するケーブルのタイプを設定します。

- 80 pin cable
- 40 pin cable
- Auto detect

パソコン本体やディスプレイの省電力機能について設定を行います。

● 画面上部

AMIBIOS SETUP - POWER MANAGEMENT SETUP (C)1999 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved		
Power Management/APM	Enabled	Available Options: Disabled ▶ Enabled ESC : Exit ↑↓ : Sel PgUp/PgDn : Modify F1 : Help F2/F3 : Color
Video Power Down Mode	Suspend	
Hard Disk Power Down Mode	Suspend	
Suspend Time Out (Minute)	Disabled	
Keyboard & PS/2 Mouse Access	Monitor	
FDC/LPT/COM Ports Access	Ignore	
MIDI Ports Access	Ignore	
Primary Master IDE Access	Ignore	
Primary Slave IDE Access	Ignore	
Secondary Master IDE Access	Ignore	
Secondary Slave IDE Access	Ignore	
PIRQ [A] IRQ Active	Ignore	
PIRQ [B] IRQ Active	Ignore	
PIRQ [C] IRQ Active	Ignore	
PIRQ [D] IRQ Active	Ignore	
Power Button Function	Instant Off	
Restore on AC/Power Loss	last State	
Resume On Ring Header	Disabled	
Resume On LAN Header	Disabled	
PCI Slot PME Function Support	Disabled	

(注) 画面は一例です。

● 画面下部

AMIBIOS SETUP - POWER MANAGEMENT SETUP (C)1999 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved		
FDC/LPT/COM Ports Access	Ignore	Available Options: ▶ Disabled Enabled ESC : Exit ↑↓ : Sel PgUp/PgDn : Modify F1 : Help F2/F3 : Color
MIDI Ports Access	Ignore	
Primary Master IDE Access	Ignore	
Primary Slave IDE Access	Ignore	
Secondary Master IDE Access	Ignore	
Secondary Slave IDE Access	Ignore	
PIRQ [A] IRQ Active	Ignore	
PIRQ [B] IRQ Active	Ignore	
PIRQ [C] IRQ Active	Ignore	
PIRQ [D] IRQ Active	Ignore	
Power Button Function	Instant Off	
Restore on AC/Power Loss	last State	
Resume On Ring Header	Disabled	
Resume On LAN Header	Disabled	
PCI Slot PME Function Support	Disabled	
Resume On RTC Alarm	Disabled	
RTC Alarm Date	15	
RTC Alarm Hour	12	
RTC Alarm Minute	30	
RTC Alarm Second	30	

(注) 画面は一例です。

Power Management/APM

省電力管理および、APM(Advanced Power Management)を可能にします。

- Disabled
- Enabled

Video Power Down Mode

ビデオサブシステムが、一定のシステム停止期間後に移行する、省電力モードを特定します。

- Disabled
- Suspend

Hard Disk Power Down Mode

ハードディスクドライブが、一定のシステム停止期間後に移行する、省電力モードを特定します。

- Disabled
- Suspend

Suspend Time Out (Minute)

サスペンドモードに移行する前の、システム停止期間を設定します。

サスペンドモードでは、消費電力が大幅に節約されます。

- Disabled
- 1
- 2
- 4
- 8
- 10
- 20
- 30
- 40
- 50
- 60

Keyboard & PS/2 Mouse Access

[Monitor] に設定している場合は、キーボードや PS/2 マウスから入力があったときに省電力モードを解除します。

- Ignore
- Monitor

FDC/LPT/COM Ports Access

[Monitor] に設定している場合は、それぞれのポートにアクセスしたときに省電力モードを解除します。

- Ignore
- Monitor

MIDI Ports Access

[Monitor] に設定している場合は、MIDI ポートにアクセスしたときに省電力モードを解除します。

- Ignore
- Monitor

Primary Master IDE Access

Primary Slave IDE Access

Secondary Master IDE Access

Secondary Slave IDE Access

[Monitor] に設定している場合は、それぞれの IDE インタフェースにアクセスしたときに省電力モードを解除します。

- Ignore
- Monitor

PIRQ [A] IRQ Active

PIRQ [B] IRQ Active

PIRQ [C] IRQ Active

PIRQ [D] IRQ Active

[Monitor] に設定している場合には、それぞれの IRQ にアクセスしたときに省電力モードを解除します。

- Ignore
- Monitor

Power Button Function

電源スイッチの用途を設定します。[Instant Off] に設定された場合、電源スイッチを押すことにより、システムの電源のオン・オフが可能になります。

[Delay 4 Sec] に設定された場合は、電源スイッチを 4 秒押し続けることにより、システムの電源オフが可能になります。

- Instant Off
- Delay 4 Sec

Restore on AC/Power Loss

停電などの不具合によりシステムがシャットダウンした場合、電源が復帰した後にシステムを、パワーオンの状態に戻す設定が可能です。

- Power On
- Power Off
- Last State

Resume On Ring Header

シリアル Ring Indicator (RI) ラインの入力 (モデムへの入電) シグナルで、システムを省電力モードから、通常の状態に戻します。

- Disabled
- Enabled

Resume On LAN Header

WOL コネクタを介した PCILAN カードからの入力で、システムを起動または省電力モードを解除します。

- Disabled
- Enabled

PCI Slot PME Function Support

PME 信号の入力でシステムを起動または省電力モードを解除します。

内蔵 LAN の Wake On LAN 機能を使用するためには [Enabled] に設定してください。

- Disabled
- Enabled

Resume On RTC Alarm

[Enabled] に設定された場合、省電力モードの状態から、通常の状態に戻すまでの日、時間を設定できます。

- Disabled
- Enabled

RTC Alarm Date

[Resume On RTC Alarm] が、[Enabled] に設定されている場合、アラームが開始する日を設定できます。

- 1, 2, ..., 31 day, Every Day

RTC Alarm Hour

[Resume On RTC Alarm] が、[Enabled] に設定されている場合、アラームが開始する時間を設定できます。

- 0, 1, 2, ..., 23 hours

RTC Alarm Minute

[Resume On RTC Alarm] が、[Enabled] に設定されている場合、アラームが開始する分を設定できます。

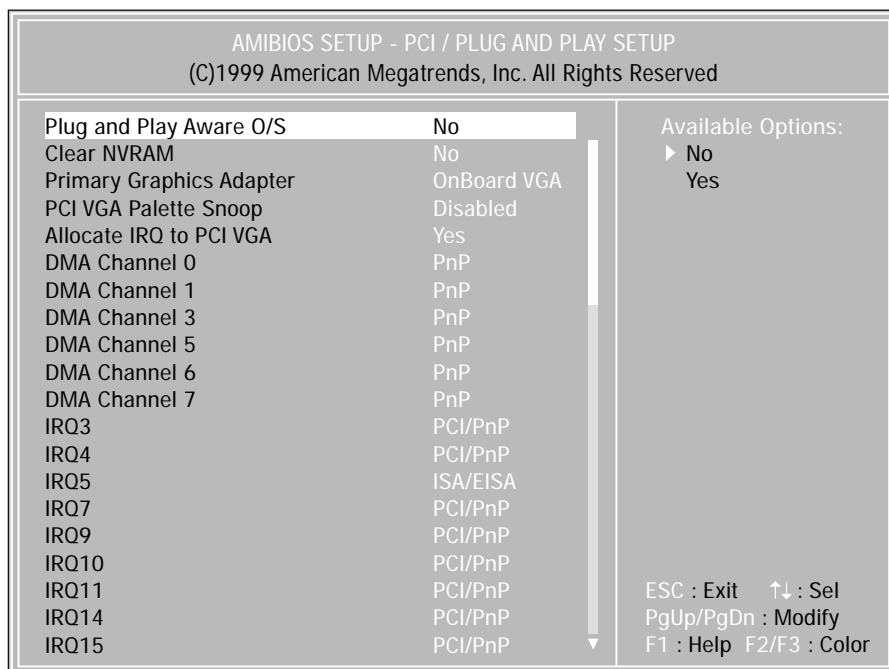
- 0, 1, 2, ..., 59 minutes

RTC Alarm Second

[Resume On RTC Alarm] が、[Enabled] に設定されている場合、アラームが開始する秒を設定できます。

- 0, 1, 2, ..., 59 seconds

パソコン本体やディスプレイの省電力機能について設定を行います。



(注) 画面は一例です。

Plug and Play Aware O/S

[No] に設定すると、BIOS がデフォルトのリソースの割り当てを行います。

[Yes] に設定すると、BIOS は最低限のリソースのみ割り当てを行います。

この項目は、Windows 98 / 95 モデルでは [Yes] に、Windows 2000 / NT モデルでは [No] に設定されています。



お願い

・ Windows NT モデルでは、必ず、[No] に設定してください。

- ・ No
- ・ Yes

Clean NVRAM

[Yes] に設定すると、NVRAM の内容を初期化します。

- ・ No
- ・ Yes

Primary Graphics Adapter

内蔵グラフィックと PCI グラフィックカードを同時に使用している場合、どちらを標準にするかを設定します。

- ・ OnBoard VGA
- ・ Add-on VGA

PCI VGA Palette Snoop

PCIグラフィックカードに、本装置の内蔵パレットを使用するかどうかを設定します。

- Disabled
- Enabled

Allocate IRQ to PCI VGA

[Yes] に設定すると、PCIグラフィックカードおよび内蔵グラフィックのIRQを割り当てます。

- No
- Yes

DMA Channel 0,1,3,5,6,7

指定されたDMAチャンネルが使用するバスタイプを設定します。

- PnP
- ISA/EISA

IRQ 3,4,5,7,9,10,11,14,15

プラグアンドプレイに対応していないカードで使用するIRQを割り当てるときは [ISA/EISA] に設定します。

オンボードの周辺機器は、PCI/PnPと設定され、BIOSによって割り当てられます。

- PCI/PnP
- ISA/EISA

パソコンが起動する際の設定を行います。

AMIBIOS SETUP - PERIPHERAL SETUP (C)1999 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved		
OnBoard AC '97 Audio	Enabled	Available Options: ▶ Enabled Disabled
OnBoard AC '97 Modem	Disabled	
OnBoard IDE	Both	
OnBoard FDC	Auto	
OnBoard Serial PortA	Auto	
OnBoard Parallel Port	Auto	
Parallel Port Mode	ECP	
Parallel Port IRQ	7	
Parallel Port DMA Channel	3	
OnBoard Midi Port	330	
Midi IRQ Select	9	
OnBoard Game Port	200	
Keyboard PowerOn Function	Disabled	
Specific Key for PowerOn	N/A	
Mouse PowerOn Function	Disabled	
ESC : Exit ↑↓ : Sel PgUp/PgDn : Modify F1 : Help F2/F3 : Color		

(注) 画面は一例です。

OnBoard AC'97 Audio

メインボードのオーディオコントローラを使用可能にします。

- Enabled
- Disabled

OnBoard AC'97 Modem

メインボードのモデムを使用可能にします。

- Enabled
- Disabled

OnBoard IDE

メインボードの PCI ローカルバスの IDE コントローラを設定します。

- Disabled
- Primary
- Secondary
- Both

OnBoard FDC

メインボードのフロッピードライブコントローラーを使用可能にします。

- Auto
- Disabled
- Enabled

OnBoard Serial Port A

メインボードのシリアルポート A を使用可能にし、ベースアドレスを指定します。

- Auto
- Disabled
- 3F8/COM1
- 2F8/COM2
- 3E8/COM3
- 2E8/COM4

OnBoard Parallel Port

メインボードの平行ポートを使用可能にし、ベースアドレスを指定します。

- Auto
- Disabled
- 378
- 278
- 3BC

Parallel Port Mode

平行ポートのモードを設定します。

- Normal
- Bi-Dir
- EPP
- ECP

Parallel Port IRQ

平行ポートの IRQ を設定します。

- 5
- 7

Parallel Port DMA Channel

平行ポートの DMA チャンネルを設定します。

- 0
- 1
- 3

OnBoard Midi Port

メインボードの MIDI ポートを使用可能にし、ベースアドレスを指定します。

- Disabled
- 330
- 300
- 290
- 292

Midi IRQ Select

[On Board Midi Port] でベースアドレスを指定したときに、MIDI ポートの IRQ を設定できます。

- 5
- 7
- 9
- 10

OnBoard Game Port

メインボードのゲームポートを使用可能にし、ベースアドレスを指定します。

- Disabled
- 200
- 208

Keyboard PowerOn Function

キーボードから電源を入れる機能を設定します。

- Disabled
- Any Key
- Specific Key

Specific Key for PowerOn

[Keyboard Power On Function] で [Specific Key] に設定した場合に、電源を入れるための特定のキー（パスワード）を設定できます。

「Enter new keyboard wake up password : 」というメッセージの後にパスワードを入力し、設定します。

Mouse PowerOn Function

マウスから電源を入れる機能を設定します。

- Disabled
- Left-button
- Right-button



Auto-DETECT HARD DISKS

AMIBIOS SETUP - STANDARD CMOS SETUP										
(C)1999 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved										
Date (mm/dd/yyyy) : Sat Jul 01, 2000					Base Memory : 640MB					
Time (hh/mm/ss) : 12:30:00					Extd Memory : 62 MB					
Floppy Drive A : 1.44 MB 3 1/2										
Floppy Drive B : Not Installed										
	Type	Size	Cyln	Head	WPcom	Sec	LBA Mode	Blk Mode	PIO Mode	32Bit Mode
Pri Master	: User	13666	26477	16	0	63	On	On	4	On
Pri Slave	: Not Installed									
Sec Master	: CDR0M								4	On
Sec Slave	: Not Installed									
Boot Sector Virus Protection					Disabled					
Month : Jan - Dec					ESC : Exit ↑↓ : Sel					
Day : 01 - 31					PgUp/PgDn : Modify					
Year : 1901 - 2099					F1 : Help F2/F3 : Color					

(注) 画面は一例です。

接続されている装置を検出します。

装置が検出されると [Standard CMOS Setup] の項目にある [Type] が [Auto] 以外の接続されている装置に変わります。

[Type] が [Auto] 以外の設定になると、ドライブが認識できなくなることがあります。

[Auto-Detect Hard Disks] を実行した後は、[Standard CMOS Setup] で [Type] の設定を [Auto] に変更してください。

10 Password の設定

パソコン本体にパスワードを設定して、他の人がパソコンを使用したり、設定を変えたりできないようにできます。

電源投入時にパスワードを正しく入力しないとパソコン本体は使用できません。

パスワードにはユーザパスワード (User Password) と管理者用パスワード (Supervisor Password) の 2 つがあり [Change User Password] では User Password を、[Change Supervisor Password] では Supervisor Password を設定できます。

Supervisor Password を設定しないと User Password を設定することができません。



お願い

- ・パスワードを登録する場合は、忘れないように必ずパスワードを控えてください。
- ・パスワードを登録した場合は、省電力モード時から解除するときに、パスワードの入力が必要になります。
- ・パスワードは表示されませんので確認することはできません。
- ・パスワードを忘れてしまった場合は、同梱の『保守サービスのご案内』をご覧のうえお近くのサービスステーションにパスワードの解除をご依頼ください。
パスワードの解除を保守サービスにご依頼される場合は、有償です。またそのとき、身分証明書 (お客様ご自身を確認できる物) の提示が必要となります。

Change Supervisor Password

管理者パスワードの設定、変更を行います。

[Change Supervisor Password] でパスワードを設定している場合、パソコンを起動すると「Enter Current Supervisor Password」というメッセージが表示されます。設定したパスワードを入力すると画面が表示されます。

Enter Current Supervisor password

現在のパスワードを入力します。

Enter new supervisor password

新しいパスワードを入力します。

Retype new supervisor password

確認のためパスワードを再入力します。



メモ

- ・管理者パスワードを使用しているときは、BIOS セットアップのすべての項目を設定できます。

Change User Password

ユーザパスワードの設定、変更を行います。[Change User Password] でパスワードを設定している場合、パソコンを起動すると「Enter Current User Password」というメッセージが表示されます。設定したパスワードを入力すると画面が表示されます。

[Supervisor Password] が設定されていないと、[User Password] を設定することはできません。

Enter Current User password

現在のパスワードを入力します。

Enter new User password

新しいパスワードを入力します。

Retype new User password

確認のためパスワードを再入力します。



メモ

- ・ユーザパスワードでパソコンを起動した場合は、BIOS セットアップで設定変更できる項目は制限されます。

項目の設定については各メニューの詳細をご覧ください。

STANDARD CMOS SETUP

項目		工場出荷時の設定値
Floppy Drive A		1.44MB 3 1/2"
Floppy Drive B		Not Installed
Pri Master	Type	Auto
	32Bit Mode	On
Pri Slave	Type	Auto
	32Bit Mode	On
Sec Master	Type	Auto
	32Bit Mode	On
Sec Slave	Type	Auto
	32Bit Mode	On
Boot Sector Virus Protection		Disabled

ADVANCED CMOS SETUP

項目	工場出荷時の設定値
CPU Ratio Selection	Locked
1st Boot Device	Floppy
2nd Boot Device	IDE-0
3rd Boot Device	CD-ROM
BootUp Num-Lock	On
Floppy Drive Swap	Disabled
Floppy Drive Seek	Disabled
PS/2 Mouse Support	Enabled
Primary Display	VGA / EGA
Password Check	Always
System BIOS Cacheable	Disabled
C000, 64k Shadow	Cached
D000, 64k Shadow	Disabled

ADVANCED CHIPSET SETUP

項目	工場出荷時の設定値
USB Keybd/Mouse Legacy Support	Disabled
Display Cache Window Size	64MB
Primary IDE cable type	Auto detect
Secondary IDE cable type	Auto detect

POWER MANAGEMENT SETUP

項目	工場出荷時の設定値	
	Windows 98 / 95	Windows NT / 2000
Power Management/APM	Enabled	
Video Power Down Mode	Suspend	
Hard Disk Power Down Mode	Suspend	
Suspend Time Out (Minute)	20min	Disabled
Keyboard & PS/2 Mouse Access	Monitor	
FDC/LPT/COM Ports Access	Ignore	
MIDI Ports Access	Ignore	
Primary Master IDE Access	Ignore	Monitor
Primary Slave IDE Access	Ignore	
Secondary Master IDE Access	Ignore	
Secondary Slave IDE Access	Ignore	
PIRQ [A] IRQ Active	Ignore	
PIRQ [B] IRQ Active	Ignore	
PIRQ [C] IRQ Active	Ignore	
PIRQ [D] IRQ Active	Ignore	
Power Button Function	Instant Off	
Restore on AC/Power Loss	Power Off	
Power On Ring Header	Disabled	
Resume On LAN Header	Disabled	
PCI Slot PME Function Support	Disabled	
Resume On RTC Alarm	Disabled	
RTC Alarm Date	-	
RTC Alarm Hour	-	
RTC Alarm Minute	-	
RTC Alarm Second	-	

PCI / PLUG AND PLAY SETUP

項目	工場出荷時の設定値	
	Windows 98 / 95	Windows NT / 2000
Plug & Play Aware O/S	Yes	No
Clear NVRAM	No	
Primary Graphics Adapter	Add-on VGA	
PCI VGA Palette Snoop	Disabled	
Allocate IRQ to PCI VGA	Yes	
DMA Channel 0	PnP	
DMA Channel 1	PnP	
DMA Channel 3	PnP	
DMA Channel 5	PnP	
DMA Channel 6	PnP	
DMA Channel 7	PnP	
IRQ 3	PCI/PnP	
IRQ 4	PCI/PnP	
IRQ 5	PCI/PnP	
IRQ 7	PCI/PnP	
IRQ 9	PCI/PnP	
IRQ 10	PCI/PnP	
IRQ 11	PCI/PnP	
IRQ 14	PCI/PnP	
IRQ 15	PCI/PnP	

PERIPHERAL SETUP

項目	工場出荷時の設定値
OnBoard AC '97 Audio	Enabled
OnBoard AC '97 Modem	Disabled
OnBoard IDE	Both
OnBoard FDC	Auto
OnBoard Serial PortA	Auto
OnBoard Parallel Port	Auto
Parallel Port Mode	ECP
Parallel Port IRQ	—
Parallel Port DMA Channel	—
OnBoard Midi Port	330
Midi IRQ Select	9
OnBoard Game Port	200
KeyBoard PowerOn Function	Disabled
Specific Key for PowerOn	N/A
Mouse PowerOn Function	Disabled